

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2017
11
November

地域農業をリードする熱き農業者達

第9号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

<巻頭言>

- 当たり前、は変わる (和歌山県農業士会連絡協議会 会長 山崎 明) …… 1
農業には「若い力」が必要ですね (和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課 課長 井岡 隆) …… 2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

- 生涯チャレンジ ～好奇心旺盛な人生～
(海南市 指導農業士 宮尾 修司) …… 3
家族と共に歩む ～楽しい農業の実践～
(紀の川市 指導農業士 西口 靖) …… 5
美味しい富有柿づくりを経営の柱に ～「九度山の富有柿」のブランドを守る～
(九度山町 指導農業士 玉置 成朝) …… 7
400年歴史をつなぐ ～有田 QUALITY のみかんづくり～
(有田市 地域農業士 久世 佳典) …… 9
農業とボランティア活動 (日高川町 指導農業士 中村 幸男) …… 11
「南高」を拡大、梅の専作経営!? ～収穫・漬け込みまで省力化～
(田辺市 指導農業士 山下 繁一) …… 13

<農業に懸ける想い>

若い農業者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

- 常識を越えて 誇り高き農業を (和歌山市 JA わかやま青年部 山本 康平) …… 15
高自給率地域で魅力ある農業 (紀の川市 地域農業士 壺井 邦樹) …… 16
野菜中心の複合経営を目指して (橋本市 JA 紀北わかわかみ青年部 生地 弘季) …… 17
効率化による規模拡大 (有田川町 青年農業士 嶋田 悦也) …… 18
地域貢献と野菜のブランド化 松ブランド(松キュウリ)の取り組み
(美浜町 青年農業士 田淵 秀樹) …… 19
いろんな繋がりが大事!!! ～楽しく農業をやってみたい～
(田辺市 青年農業士 平田 卓巳) …… 20

<県農林大学校学生です。>

農林大学校農学部1年生の自己紹介&近況報告(第1回)

- 園芸学科 …… 21
榎原 秀弥 吉川 龍詩 楠木 大地 栗田 紘輔
小畑 雄二郎 近藤 樂 最田 涼巴 阪口 愛花音
アグリビジネス学科 …… 23
井谷 拓弥 尾崎 弘尚 檀山 豊希 城村 美海
平成30年度 和歌山県農林大学校 学生・研修生募集! …… 24

巻頭言

当たり前、は変わる

和歌山県農業士会連絡協議会

会長 山崎 明



平成 29 年 4 月 27 日に開催されました、県農業士会連絡協議会の通常総代会におきまして、会長に就任させていただきました、有田郡の山崎です。

会員の皆様方には農業士の活動のみならず、各地域においてリーダーとして御活躍されていることに厚く御礼申し上げます。

私は、就農してから今年で 43 年目を迎えます。

私の住んでいる地域はみかん類、特に中生みかんが多く栽培されています。最近は温暖化の影響により、浮皮・着色の遅れ、高温障害等が発生し、課題を挙げればキリがありません。また、本年も各地で時間雨量が 100mm を越えたり、土砂災害、洪水被害、日照不足等々がありました。大雨の回数が多い一方で、地域によっては晴天が続き水不足に悩まされることもあり、対応に苦労された農家は多いと思います。

当たり前に使っていた物が当たり前にならなくなる。この傾向は年々増加、もはや加速する一方です。みかんに関して言うと、私の地域ではマルチシートの被覆やホルモン剤の散布等の対策を行っていますが、最後は品種の転換しかないと考えています。

果樹類に限らず農業全体においても、今までなかった事が今後おきると思います。

今後は、これが当たり前という意識で対応していかなければならない気がします。

和歌山県の農業に関しても課題はたくさんあると思います。

鳥獣害に対しても、耕作放棄地が増加すると、被害も増加する傾向にあるように思われます。今後、農作業の中でも対策の占める割合は多くなるでしょう。

後継者の育成も、次の世代へ繋ぐという大変重要な役割です。最後まで思い続ければ願いは必ず叶う、働く事が実を結び仕事が楽しいと感じられる農業に出来ればと思います。

県農業士会連絡協議会としても、関係機関、団体とも協力して諸問題に対応していきたいと考えています。今後、新執行部で力をあわせて頑張っていきたいと思いますので、皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

この機会を与えてくださった、先輩方に感謝いたします。

最後になりましたが、志波前会長をはじめ、役員を退任されました皆様方には、深く感謝を申し上げますとともに、会員の皆様方の御健康をお祈り申し上げます。

巻頭言

農業には「若い力」が必要です

和歌山県農林水産部農業生産局 経営支援課

課長 井岡 隆



「ノケジョ」という言葉を新聞や雑誌で見かける機会が増えてきました。大学の農学部や農業高校に通う女子学生のことです。

ある新聞記事によると、某農学系大学では今年度の入学試験で、合格者の女性比率が初めて男性を上回ったそうです。同様に、アグリビジネス学科を新設した県農林大学校の今年度入学者も24名中、8名が女性で、これほど女性割合が高いのは農大創設後初めてのことです。

私も農学部出身ですが、入学時は28名中、女性はずいぶん少なかったと思います。当時は、農業に対するイメージも3Kなどと言われ、女性には敬遠されたものですが、ずいぶん変わったなと思います。

また、内閣府が実施した「農山漁村に関する世論調査」（平成26年）によれば、農山漁村地域に定住願望があるか聞いたところ、「ある」とする者の割合が約32%で、平成17年調査に比べ11ポイント増加し、田舎暮らしを志向する者が増加しています。

みんなが経済的豊かさを求め、ワンクラス上の生活を目指していた時代は過去のものとなり、生活の楽しさや心の充実を求める価値観の変化・多様化が進む中で、農業をやってみたい、農村に住みたいというニーズは確実に高まっています。実際、農業次

世代人材投資資金（旧青年就農給付金）などの新規就農者の支援施策の充実もあり、農業に参入しようとする若者が増えています。

ところが残念なことに、新規参入者が農業や農村に持っているイメージと現実の間にはギャップが存在し、実際に就農してみると「きつい」、「休めない」、「難しい」などと感じ、場合によっては挫折してしまうことがあります。それを見た地元の方々は、「農業はそんな甘いもんやないぞ」といって少々腹立たしい気持ちになるのでしょうか。

とはいえ、農業の担い手減少の勢いはすさまじく、和歌山県の農業就業人口は年間1,300人も減少しています。これだけ担い手が減少すると、地元の人たちだけでは産地や地域を維持できなくなるのは自明の理です。

都会暮らしの若者は、農業がどんなものなのか、農村の生活がどんなものなのか、十分な知識がありません。今の若者に参入前から万全な覚悟を求めるのも無理があります。

農村は価値観の違う多様な人々を受け入れられる包容力を持っていると思っています。農業を志す若い力を育てるにはどのような仕組みづくりが必要なのか、農業士をはじめ関係者の皆さんとともに考えていきたいと思いますので、引き続き、ご協力、ご理解を賜りますようお願いいたします。

私の農業

生涯チャレンジ ～ 好奇心旺盛な人生 ～

海南市 指導農業士

宮尾 修 司



1. はじめに

私は農家の長男であったことから、小さい頃から農業を継ぐと決めて、昭和53年に高校を卒業と同時に就農しました。当時、周りから農大や試験場での研修を勧められたのですが、早く実践に入りたいだったので、すぐに就農しました。就農後は4Hクラブや青年団、また下津町農業研究会青年同志会にも加入し、同世代の仲間と精力的に交流し、活動しました。

就農当時は両親と私の3人の労働力でしたが、数年後に結婚して、家内も子育てをしながら農業を手伝ってくれました。

2. 農業経営の特徴

下津町は古くからの貯蔵みかん産地です。土壁の小屋で12月に収穫したみかんを木箱に入れて、湿度を調整しながら、味をまろやかにして1月下旬から出荷するのです。

就農当時の我が家も180aの栽培面積のうち、八



蔵出しみかん貯蔵庫内の木箱

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ゆら早生	7a
早生温州	50a
普通温州	130a
中晩柑（清見、セミノール せとか、デコポン他）	50a
キウイフルーツ	3a
○労働力	
家族	2名
雇用（収穫時）	1名

朔、甘夏が少しあるくらいでほとんどが貯蔵みかんでした。みかん生産過剰の時代で労力分散を兼ねて、40a程を宮本早生、伊予柑、ネーブル、セミノール等に更新しました。その更新した品目を出荷するために町内の有志で立ち上げた組合（現在の下津町クラウン果実協同組合）に加入して、父の時代からの個選と、共販を両立する形態で出荷してきました。

認定農業者の認定を受け、将来息子との農業を夢見て規模拡大を進めました。近隣の農地を借り入れるなど、増減を繰り返して現在の面積240aになりました。

さらに、改植事業を活用して、早生温州や中晩柑への改植をすすめ、老木園もほとんどなくなりました。

出荷もクラウン組合に一本化しました。主な出荷先は、大阪中央青果（株）、東京多摩青果（株）です。

組合では、市場での販売シェアが維持でき、百貨店、コンビニ、生協等にも売り込みをかけられる等、個選でできない取組ができます。

毎年、百貨店等で若い組合員を中心に販売促進活動も行っています。以前はネット通販にも取り組んだのですが、当時の認知度はまだ低く、これは失敗しました。

組合は共選方式ですが、貯蔵みかんだけは各家庭で荷作りして持ち寄り共販としています。最近では省力化で、コンテナ貯蔵している農家もいるようですが、私たちは昔ながらの木箱による貯蔵方法にこだわりを持ち続けているので、市場でも高評価を頂いています。

組合員も高齢化していて、生産、荷作り、販売、配金、運営など全部自分たちで行っているのですが、我が家同様、世代交代がなかなか進みません。これからは意欲ある若い農業者の勧誘にも力を入れたいです。

近年、地球温暖化等でみかんの栽培適地が北に移動しているように思います。この影響で、高品質果実づくりが難しくなってきました。皆で情報交換などしながら、対応していきたいと考えています。



せとかに日焼け防止のサンテ

3. 今後の経営方針

現在は省力化を目指しています。倉庫には天井クレーンや大型の選果機を設置しました。

また、楽だと聞けば空調服や両肩掛け収穫かご、



天井クレーンと選果機

肩掛け型施肥バケツ、軽量長靴なども早くから購入して使っています。園地ではモノラック（一部には園内道）、灌水用のクーラーを設置しています。しかし、葉散用クーラーはあえて設置していません。貯蔵方法もそうですが、こだわりを持って、経営面積を減らしてでも、品質維持優先でやっていきたいと思っているからです。



空調服を着ての摘果作業

趣味は釣りやカラオケ。それに子供が小学校の頃からの父兄や家内と続けているソフトバレーボールです。仲間の失敗を笑い転げながら汗かくのは一番のストレス解消ですよ。また最近、この年でゴルフを始めました。近所にも同じような仲間がいるので、続けていけるかなと思っています。

これからも健康に気を付けて、農業も趣味も頑張っていきたいと思います。

私の農業

家族と共に歩む ～ 楽しい農業の実践 ～

紀の川市 指導農業士

西 〇 靖



1. はじめに

私は、昭和 55 年に酪農学園大学酪農学部酪農学科を卒業後、地元に戻り家業である果樹・畜産複合経営の畜産部門を後継しました。翌年結婚を機に、父母は果樹栽培、私は肉牛肥育と経営を分割し、互いに協力し合いながら進んできました。

また、昭和 60 年には、地域の農家との交流と共生を目的に牛糞堆肥（まきばユーキ）の生産販売も、地元の畜産農家と共にスタートさせ、地域との交流を深めながらの営農に取り組んできました。

そして、平成 19 年に父の引退を迎え家族で話し合い、再び経営を統合し複合経営に戻し、翌年長男夫婦が後継者として就農し、現在に至っています。

2. 農業経営の特徴

肉牛肥育は、黒毛和種 80 頭で年間 40 頭ずつ 31～32 カ月齢でオールイン、オールアウトのコンスタントな出荷を行っています。飼料は全て自家配合を行い、自分の飼養技術に適合した血統の子牛を宮崎中央仔牛市場より導入し出荷とともに自車輸送を行っています。

肥育管理では牛のストレスを少なく飼育する事に心掛け、高品質と量産を両立させ、売上げの向上を図っています。

出荷牛は大阪食肉市場に上場されますが、殆どが和歌山県のブランド牛「熊野牛」として、県内の業

農業経営の概況

○作付品目と面積	
黒毛和牛 (堆肥生産量 300t)	80 頭
柿	130a
温州みかん	60a
梨	40a
水稻	10a
シャクヤク	10a
○労働力	
家族	5 人

者に販売しています。

牛糞は全て堆肥醗酵プラントの「まきばユーキ」にし年間 300t ほど生産し、JA 紀の里を通じて販売しています。



肉牛肥育状況



堆肥施設

果樹栽培では、自家製堆肥を使って、土作りに力を注いでいます。

また、栽培する作目にも柿・みかん・梨と、家族労力が集中しないように組み合わせ、農作業が行き届くようにしています。



袋掛の梨園

そして仕事に飽きず家族全員が働ける様に同じ作業を長く続けないように心掛け、作業ストレスの軽減を計っています。

なお、樹型に於いても、省力化を図るため、思いきって低く仕立て、脚立をあまり使わなくていいようにしています。

仕事内容も細かく責任を分担し、それぞれが得意な分野を分担し、柔軟に対応出来る様にし、全員同じ目標である、高品質生産に取り組んでいます。



低樹形の柿園



低樹形の紀の川柿

3. 今後の経営方針

現在の経営を軸に、新しい技術の導入や新しい作目への挑戦を行っていきたくと思います。

また、積極的に研修や視察に参加し、異業種との交流等も行い情報を集め、経営体で有る限りは、売上げ向上に努めて行きます。

4. おわりに

「一生勉強・一生感動」もモットーに、家族全員が楽しみながら働ける農業こそが本当の農業で有ると思います。

大きな目標に向かって日々努力を重ねて行きたいと思っています。

私の農業

美味しい富有柿づくりを経営の柱に ～「九度山の富有柿」のブランドを守る～

九度山町 指導農業士

玉置成朝



1. はじめに

私が高校に入学して直後に、父が病気で他界したので、私は家業の農業をしながら、高校、大学へと通いました。その頃、柿・柑橘類の価格が良かったので、卒業後すぐに就農し、第二人も大学へやることができました。

私にとっては、仕事と勉強だけの青春でしたが、この様な日常の中から「学ぶことは自分が変わる」と悟り、今ではこの言葉が私の信条となっています。

当時、農業の技術的なことは分からない事ばかりで、農協の指導員や近所の農家の方に教えてもらい助けていただきました。

その後、26歳の時に青年農業士に認定され、当時、農業士に認定されると一年間の研修期間があり、指導農業士の方の家での実習や研修会等で講演を聞く機会があり、新技術の習得や地域活動の大切さを教えていただきました。

2. 農業経営の特徴

私の住む九度山町内には、昔はミカン、柑橘類、スモモ等が多く植えられていましたが、今ではその殆どが柿に変わり、我が家も柿だけの経営になりました。

収穫時期は、9月上旬の極早生品種から12月中旬の「富有」まで続きます。地域内には「刀根早

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿	205a
富有	120a
刀根早生	70a
極早生	10a
早秋 太秋	5a
○労働力	
家族労力	3人

生」が多い中で、我が家では「富有」6割、「刀根早生」3割で、富有柿を多く栽培しています。これは、柿畑が南東向きで、日当たりが良く、地味（根域）が深く、美味しい富有柿が生産できるからです。

さらに、富有柿を美味しくするため、私はこの柿にも環状剥皮処理をしています。剪定時に切除する枝や3～4年使った側枝更新する枝に環状剥皮を



「富有」の枝剥皮の様子

施します。但し、剥皮した枝は「刀根早生」に比べて折れやすいので、竹片を添えてしっかりと補強をしています。

この様に剥皮した早生の富有柿は 10 月上旬の早期に収穫して出荷したり、また、逆に、適期に収穫した柿を JA 選果場の冷蔵庫内に保存して冷蔵柿にしたり、防寒（霜）の目的で袋掛けをして、12 月上中旬に遅く収穫して、販売期間を長くしたりしています。

富有柿は、大玉で、色が良く、糖度の高い、美味しいものを作る。この一言に尽きます。

この様に美味しい柿に仕上げるためのひと手間を加えることで、「九度山の富有柿」として消費者の皆様からの人気が高く、喜んでいただいています。



今年の作柄を調べる

3. 今後の経営方針

我が家では柿園の 8 割が急傾斜地にあり、園地条件が悪いこともあり、私の代で農業をやめようと思っていました。最近、息子が就農することになり、終農から一転して持続性のある農業へと経営の舵をきりました。

まず、手始めに高接ぎ由来の「刀根早生」を極早生に転換するため、10a に「紀北川上早生」を植え、さらに、富有柿は若返りのため、同じ「富有」の苗木を隔年に 100 本づつ植え付けています。既に 60a に栽植し、あと 6 年もすると富有柿の 8 割（約

1ha）が若木に更新できます。

しかし、折角、植え付けた苗木が猪の被害で枯れてしまうこともあって思うようにはいきません。今ではこの猪から柿をどう守るかが柿農家の一番の課題です。

他方、周辺では放任園が増加してきており、四方からカズラが迫ってきています。特に、カメムシの発生が多い年にはこの虫の駆除が大変です。そこで、隣接園のカズラを除草剤で枯らし、7 月から殺虫剤を定期的に散布することで何とか被害が少なくなりました。

4. おわりに

若いころ農協青年部で県役員を 5 年間経験し、また、ここ 2 年間は、県農業士会の理事に就任させていただく中で、他地域の方々と交流できたことで、県全体の農業の様子が良く理解できました。

また、スピードスプレーの導入にあたっては、農機具販売店が主催するグループにも入会し、園内道の作り方や SS 防除のコツを習得しました。この様に、いろいろな会に入って活動する事の大切さを実感しています。

農業を取り巻く環境は、より一層グローバル化が進んでおり、今後、市場の変化に対応できる能力、時代の変化に柔軟に変化できる心構え（精神）が重要であると私は思っています。



柿畑から北東方向（橋本市）を望む

私の農業

400年歴史をつなぐ ～有田 QUALITY のみかんづくり～

有田市 地域農業士
久世佳典



1. はじめに

私は、農林水産省果樹試験場興津支場（現 農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点）にて研修後、平成8年に就農しました。

就農当時は、早生温州と普通温州の割合がほぼ半々でしたが、林温州から宮川早生への改植や近隣の早生園地の購入により、早生温州が約7割まで増加しています。

また、有田地域特有の急傾斜の園地が多いことから、防除作業の省力化のため、当初ゼロだった多目的スプリンクラー施設をほぼ全園に設置しました。



多目的スプリンクラーを完備

2. 農業経営の特徴

高品質安定生産のため、平坦地を中心にマルチ栽培とし、打ち抜き井戸等を水源に点滴チューブによるかん水を実施するほか、ノルウェー産海藻の資材やリン酸とカルシウム主体の葉面散布、後期摘果を

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	200a
（ 極早生	10a ）
（ 早生	140a ）
（ 普通	50a ）
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	5人（170日）

行っています。

個人出荷しており、市場から年明けや小玉果の出荷要望があることから、早生への改植を継続するとともに、小玉を「甘粒」（あまつぶ）として出荷しています。

また、有田市が特産品、特にみかんの高品質なものを認定・管理することにより、消費者に安心・信



小玉を「甘粒」として出荷



有田市認定みかん園

頼を与える制度として、平成 22 年度よりスタートした有田市原産地呼称管理制度の「認定みかん」(※)に 27 年度 (34a) から取り組み、今年度は 81a を申請しました。

3. 今後の経営方針

今後も、長年取り引きしている市場への出荷を中心に考えており、より良い関係を継続していくためには、近年頻発する異常気象条件下でも安定して生産する剪定・摘果を中心とした技術習得が重要だと考えています。

「有田みかん」を代表する産地の 1 つである新堂集落の園地を借り入れており、以前から指導を受けている剪定をマスターするとともに、現在実施している後期摘果について、隔年結果の解消には至っていないことから、小玉果の摘果の徹底等に取り組みます。

また、有田市認定みかんについて、現在はふるさと納税のみの対応ですが、認定園地を拡大し、「有田QUALITY」マークを表示した販売も検討していきます。

4. おわりに

就農して 20 年が経ち、有田みかん 400 年以上の歴史の重みを痛感しています。



有田市農業士会では、「みかんの花街道ウォーク」や「みかんの農作業体験授業」に協力し、地域外の方々や子供達に対するPRを実施しており、認定みかんの取り組みが広がることで、農業者自らも有田でみかんを生産することに誇りを持ってほしいと思っています。

1 ターン就農者が地域に定着するなど、新たな担い手が増えてきており、先人が作り上げた段々畑でのみかんづくりを次世代につなげるため、仲間とともにしっかりと土台づくりをしていきたいと考えています。

— MEMO — ※有田市認定みかん

「有田市原産地呼称管理委員会」から認定を受けた高品質なみかん。

栽培地や栽培方法、味や外観などの品質それぞれに定められた厳格な基準をもとに、パティシエやソムリエなど食分野のプロフェッショナルによる官能審査(実食)に合格したものだけが認定される。

認定を受けると「有田QUALITY」マークの表示が出来るほか、ふるさと納税の返礼品として位置づけられる。

認定みかんは年々好評となり、現在要望に応えきれない状況。

私の農業

農業とボランティア活動

日高川町 指導農業士

中村 幸男



1. はじめに

私は昭和 49 年に県立吉備高等学校（現有田中央高校）を卒業後就農しました。早いもので今年で 44 年目を迎えます。19 世紀のフランスの哲学者、ポール・ジャネは、年をとるほど時間が早く過ぎるように感じられると言われていましたが、私も実感しています。

さて、就農当時は柑橘類（甘夏、温州みかん、八朔）と野菜類（レタス、ブロッコリー、露地うすい）等を栽培していましたが、現在は主にハウスうすいと水稻を栽培しています。

2. うすい豌豆の歴史

明治時代に大阪府羽曳野市碓井地区松倉貢氏の新種豌豆の導入により、碓井地区を中心に栽培されたので「うすい豌豆」と名前が付いたと伝えられています。



うすい豌豆

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ハウスうすい	65a
水稻	65a
○労働力	
家族	2 人
臨時雇用	5 人

私の住む日高地方では昭和 40 年頃から栽培されています。しかし、同じ田畑で栽培していると出来が悪くなる「連作障害」を克服できず、米の裏作止まりでした。それが 30 数年前に太陽熱による土壌消毒法が開発されたのと、品種改良で誕生した良質の「きしゅううすい」の導入により、連年栽培することができるようになりました。やがて露地栽培から安定して多く収穫できるハウス栽培へと移行し、面積を増やすと同時に柑橘類や露地野菜づくりを減らしました。

3. 農業経営の特徴

約 30 年前から、ハウスうすい栽培を中心とした経営をしています。以前は個選出荷をしていましたが、労働力の関係から、全量 J A 出荷しています。

うすい作りの基本は、太陽熱での土壌消毒の徹底と土作りだと考えています。土作りは鶏糞と籾殻で作った堆肥と稲藁を毎年入れています。



ハウス栽培の様子

また、作り始めた当初、うすいの選別は手作業で行っていました。出荷規格はL、M、Aの3階級と少ないのが特徴ですが、選別には時間がかかりました。みかんや梅では以前から選果機がありました。うすいに選別機はありませんでした。そこで約20年前に近所の方がセンサーやモーターを使った選別機を考案し導入したところ選別時間を大幅に削減することができました。



導入した選別機



御坊手話サークル「ひまわり」BBQ大会

4. ボランティア活動

以前、知り合いの聴覚障害者の方から手話を習ってみないかと誘われ、少しでも社会の役に立てばと思いはじめました。現在、御坊手話サークル「ひまわり」と3年前に立ち上げた日高川手話サークルで活動しています。「ひまわり」では6年前からバーベキュー大会の実行委員長をやらせていただき、今年8月19日には120名の参加者で盛り上がりました。また手話学習と共に、手話を言語として明確に位置づける「手話言語法」の制定に向けても活動しています。

5. 今後の経営方針

我が家の農業経営は夫婦2人の労働力です。やがて高齢になるので、体力と相談しながら、効率よく仲良くやっていきたいと思えます。

6. おわりに

就農して44年間、大きな自然災害も無く、けがや病気もせずにやってこられたことに感謝しながら、今後とも農業を続けていきたいと思えます。

「南高」を拡大、梅の専作経営 !? ～ 収穫・漬け込みまで省力化 ～

田辺市 指導農業士

山下 繁 一



1. はじめに

私の農業経営は、「南高梅」を主体に、温州みかん、「不知火」などの中晩柑を栽培していますが、経営的には梅の専作に等しいです。

長男でもあり、県農業大学校卒業後の昭和 43 年に就農しました。当時から漬け梅も生産していましたが、経営は温州みかんが中心で、他に水稻、しそ、ニンニク、さらに養豚も手掛けた時期もありました。

農業を始めて 10 年ほどたった頃から、漬け梅中心の経営に舵を切りました。みかん園と水田からの転換で「南高梅」を拡大しました。

転換した梅が成木になった時期と昭和 60 年代初めからの梅ブームのタイミングが合い、今振り返ってみると「経営はうまく波に乗ることができた」と思っています。

また、平成 23～24 年に西牟婁地方農業士会連絡協議会会長を務めさせて頂き、平成 28 年県農林水産業賞（農業部門）を受賞しました。

2. 農業経営の特徴

母親がみなべ町出身で、私自身も南部高校卒であったことから、高品質の梅干し加工方法や作業の効率化に役立つ情報もおのずとみなべ郷から入ってきました。

梅の苗木はネット収穫を想定して植栽しました。梅干しのハウスを建て、一人でも天日干しなどの作

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	300a
温州みかん	10a
中晩柑	15a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用（梅）	3人

業ができるよう、梅干し用ザラはすべてプラスチックセイロに切り替えました。

また、傾斜地が多い 3ha の梅園地のほとんどに、スプリンクラーを設置し、防除の負担を大幅に軽減することができました。防除作業のスピード化は適期防除にも繋がっています。



スプリンクラーを設置し省力化

梅干しへのケシキスイ類混入が問題となり、JAが漬け込み前の水浸漬を呼びかけた10年ほど前も率先してFRPの浸漬槽を整備し、混入防止対策に取り組みました。その際、倉庫には荷吊り用のクレーンを整備しました。収穫した果実は、軽トラックの荷台に積んだ鉄枠に入れ、倉庫に帰ると鉄枠ごとクレーンを使って水浸漬します。コンテナを手でさげるのは選果の時だけで、選果した果実もシューターによって選果機から直接漬込槽に入れます。

ピーク時は、1日5～6tを漬けます。昔なら考えられない量ですが、ネット収穫や漬け込み作業の機械化のお蔭で非常に効率よくなりました。拾い収穫は午前中心で、午後からは漬け込み作業との2班に分かれ、遅くとも午後7時までには作業が終了できるように心がけています。

3. 今後の経営方針

就農して約15年の後継者である長男のことを思うと、今後の梅干しの単価が心配です。しかし、「紀南の梅やみかんがダメだと言ってしまえばそれまで」と自分に言い聞かせ、農家の創意工夫も大事だと感じています。

昨年は、田辺市芳養谷を中心に甚大な梅の降雹被害があり、私もほぼすべての園で被害がありました。さらに、今年は、3月の低温で受粉不良となり、収量が大きく減収しました。今後は、気象変動に左右されない経営対策が大切だと思います。また、収穫時の雇用についても、確保が難しくなっています。このため、この時期の労働力不足解消について県やJAでも対策を考えてもらえたらと思います。

今後の経営については、息子に経営移譲し、任せて行けたらと思っています。今、息子への助言や指導に力を入れているところです。



収穫した果実をクレーンで吊り上げる



塩で漬け込む前に水浸漬



ハウス内での天日干し

4. おわりに

現在、指導農業士として活動していますが、今年度、定年により農業士解除となります。

今後も青年農業士や4Hクラブ員、農協青年部員等の後継者のアドバイザーとして農業後継者育成はもとより地域の農業振興のためがんばりたいと思っています。

農業に懸ける想い

常識を越えて 誇り高き農業を

和歌山市 JAわかやま青年部
山本 康平



1. はじめに

大学を卒業してから、県外で高校教員をしていました。ビジネスの知識もなく商業科の担当を命じられたものですから、常にビジネス書を読み漁っていたことを覚えています。その時の、暇さえあれば情報収集する癖が、今の農業にも役立ったと思います。

元々私は果樹農家のこせがれです。「木々を殺し家業を閉めて、新たな地、生業でやってくべきか、もしくは。」と、こせがれなりに悩み、就農したことを覚えています。

2. 農業への想い・取り組み

「おまんとは“有田”か？“あら川”か？違うやろが。継いだとこで食ってけやせんぞ。」

これは、私が初めて家族以外の農家から言われた言葉です。農業で生きていくために、とにかく情報収集しようと思い、アポを取って先方農家の畑にお邪魔した時でした。エールだったのかも知れませんが、その時真正面に捉えた私は、ひどく人生を後悔したのを覚えています。

このまま父の農業知識、基盤を“普通”に受け継いでも、まず間違いなくギリ貧。なにか新たな一手を打とうと、農業書を読み漁り、農業の基本応用を知ることに注力しました。

また、インターネット、Facebook、テレビなどで出てくる、篤農家があれば、連絡先を調べて電話して「どうやったら農業で成功しますか？」と無鉄砲な質問をたくさんしていました。

なんだか無茶苦茶でしたが、そんな中でも、とても品質の高い桃や柿、みかん、野菜を栽培する篤農家の方々と出会えました。

篤農家の育てる圧倒的な品質の作物には、常識で

農業経営の概況

○作付品目と面積			
桃	120a	スモモ	20a
柿	100a	スイカ	10a
柑橘類	130a	カボチャ	10a
米	170a	マクワウリ	10a
○労働力			
家族	3名	臨時雇用	3~6名

は考えられないチャレンジ、技術があることを教えていただけました。私も常識を見直し、壊していこう、と考えて、先輩農家の皆さんの技術を基に、組み合わせを、色々と試してみました。

そうしたら、桃や柿の糖度がグンとあがり、とってもおいしくなりました。自宅の横に小さな直売所を開いているのですが、お客様もかなり増え、確かなものが出来たと思いました。

何を言われようが、最後の一人になろうが、農業で生きてやる！と今は心底思っています。もし“農業に未来はない”となっても、それは現状の技術でのことです。まだ人が発見していない何かがこの農業にはきっとあって、世界を驚かせられると私は信じています。

農業でどうだろうかと悩んでいる同世代の農家がいいたら、共に悩み、あがき、励まし、分かち合い、高めあうような、そんな力強い存在の農家であるようこれから頑張りたいです。



糖度29度の桃

農業に懸ける思い

高自給率地域で魅力ある農業

紀の川市 地域農業士

壺井邦樹



1. はじめに

私は、大学を卒業後、県外での仕事を10年余りした後、諸事情により和歌山に戻ることになりました。農業を始めたころは、農家数が減少し若手の就農者も減ってきていました。

そんな折、今では大変有名になった直売所「めっけもん広場」がオープンしました。それがきっかけで専業農家、兼業農家が相俟って地域の生産意欲が増して、それによって多種多様な野菜・果樹・花卉の自給率の高い地域であることを認識することができました。

その発信力と共に新しい感覚をもった若手就業者、異業種の経験をもったUターン就農者が増えて、地域農業を活性化してくれている地域で、多品目複合経営を行っています。

2. 農業への思い・取り組み

経営の主要品目は、イチジク、イチゴ、花卉です。イチジクは当地が全国でも有数の産地で、経験豊かな高い技術をもった生産者、関係者の方々に教わりながら、高品質で美味しいイチジクを作り、収益向上を図るとともに、皆さんと全国一の産地を目指して取り組んでいます。

また、イチゴは「さちのか」の作付けが多いのですが、今後は、市場評価も高く作業効率の良い、和歌山ブランド「まりひめ」の作付けを増やしたいと考えています。

更に、花卉は、イチジク・イチゴ以上に、ここ数年で求められるものが変化していると感じています。世代が変わって花の見方は、必要時に必要量だけを、購入されるようになってきており、今まで以上に求められている花を作るという感覚でしっかり

農業経営の概況

○作付品目と面積	
花 卉	40a
イチジク	10a
イチゴ	20a
野 菜	10a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	1～2人

作り続けなければと感じています。

今後は、異常気象の影響に適応した「環境制御技術」「新しい品種・品目の試験」などを勉強して、安定、良品生産への技術習得に努め、地域の仲間とともに、より魅力ある農業を目指していきます。



トルコキギョウの定植直後

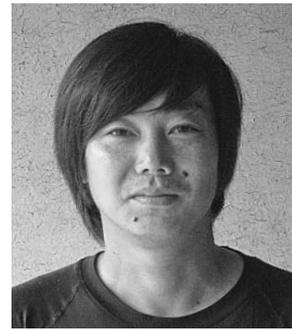


トルコキギョウの収穫期

農業に懸ける想い

野菜中心の複合経営を目指して

橋本市 JA 紀北かわかみ青年部
生地 弘季



1. はじめに

私は、平成 14 年に県農業大学校を卒業し、JA 紀北かわかみに就職。営農指導員として 11 年間勤務しましたが、農業をしたいとの思いが強くなり JA を退職。今年で就農 3 年目に入りました。

離職直後には、一時、実家の農業を手伝っていましたが、現在では、橋本市内で園地を借り受け、極早生柿 15a、刀根早生柿 15a、採種用エンドウ 10a、その他野菜 10a を栽培し、父親とは別の経営で独立して就農しています。

2. 農業への想い・取り組み

私の実家は、橋本市内にあり、柿を中心に梅、李、葡萄、キウイフルーツ等の果樹間複合経営です。ほぼ全園に軽トラックが走行できる園内道を設置し、スピードスプレーヤー防除を実践しており、作業効率が高く、管理作業が行い易い環境が整っています。

実家の農業を手伝っているうちに、自分の力で農業をしたい、野菜栽培にも挑戦したいとの思いから、青年就農給付金（経営開始型）の支給を受け、借地で野菜栽培を始めました。

最初に取り組んだのは、昔から当地で作られているエンドウの採種。JA に勤めていた時に少し関係したこともあり、将来は自分でも作ってみたいと思っていたので、採種部会に加入させていただきました。

JA では主に果樹関係の仕事が中心で、野菜のきめ細かな栽培管理には慣れていないこともあり、始め頃ははかどらず、やきもきすることもありましたが、部会の部長をはじめ、先輩方、JA の指導員に教えていただき何とか収穫にこぎつける事ができました。

自分で播種から収穫まで出来たのは初めてのことで大変うれしかったです。しかし、収穫後に豆を天日に干し、選別して種子にするのですが、その選別作業が細かく、予想以上に時間がかかり驚きました。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿 （極早生 15a、刀根早生 15a）	30a
野菜 （採種エンドウ 10a、他野菜 10a）	20a
○労働力	
家族	2人

また、昨年、エンドウの裏作としてキャベツを栽培したのですが、夏場の高温、干ばつにあい植えた苗がどんどん消えていきました。

そのため、灌水を行いました。今度は灌水したことで草に悩まされ、ヨトウムシ等に食害されて、最終的には収穫できませんでした。

原因は丁度 9 月に入り、柿の収穫時期と重なり、防除作業がおろそかになったためです。柿は当地の主産物であり、JA 指導員時代の専門分野にかけて是非にやり遂げたい品目で、これを優先させたからです。

今後、周辺の遊休農地や高齢化で栽培できなくなった畑を借り受け、色々な品目に挑戦しながら、規模拡大を図り、家族の協力と先輩方の助言、普及指導員・JA 指導員から新技術等を教わりながら、安定した収入が得られるように努力していきたいと思っています。



業務用キャベツ「おきな」の定植

農業に懸ける想い

効率化による規模拡大

有田川町 青年農業士

嶋田悦也



1. はじめに

就農して12年が経ち、産地パワーアップ事業や耕作放棄地再生利用緊急対策など、各種事業を活用し、就農時は200aでしたが、新たに50aの農地を取得しました。また、船坂地区の中山間地域等直接支払制度にかかる集落協定組織の会長も務めています。

2. 農業への想い・取り組み

父が地域に先駆けて園内道やモノラックを設置し、約25年前からは農薬散布もできる多目的のスプリンクラーも整備してくれたおかげで、作業性が上がり、現在の規模拡大につながっています。



スプリンクラー防除

一方、近年みかん産地では隔年結果が問題となっていますが、我が家では枝別に摘蕾・摘果を徹底して行い、連年安定した収量を実現しています。

また、県のグリーンサポート推進事業を活用し、収穫時に雇用しています。県内のほか、北海道、秋田県、福岡県、大分県など県外からも20才～30

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	250a
（極早生	30a
早生	180a
中生、晩生	40a
○労働力	
家族	3人



部分全摘果による安定生産

才代のサポーターに来てもらっており、個性豊かな方々との楽しい会話に刺激を受けながら作業しています。

今後も園内道を改善するなど作業の効率化をさらに図ることにより規模を拡大し、もうかる農業、魅力のある農業を自ら実践することで、地域の後継者が増えてほしいと思います。

農業に懸ける想い

地域貢献と野菜のブランド化 松ブランド（松キュウリ）の取り組み

美浜町 青年農業士

田 淵 秀 樹



1. はじめに

私は就農して9年目になります。我が家は、親の代からビニールハウスでキュウリと青ネギの輪作栽培を主体に、水稻との複合経営をしています。

父親からは「就農しても、しなくてもどちらでもかまわない」と言われていたので、4年制のコンピューター専門学校に進学し、IT関連企業に10年勤めていました。しかし、父親が体調をくずし、数ヶ月入院することになったのをきっかけに、親がまだ元気なうちに家業を学んでおこうと思い、Uターン就農しました。

2. 農業への思い・取り組み

就農後は、父親から指導を受けながらJAキュウリ部会や青年部の現地検討会などにも積極的に参加して必要な知識などを覚えていきました。そして就農して3年目には、パイプハウス15aを新設して現在の経営規模に拡大しました。

その後、我が町美浜町で行っている煙樹ヶ浜の松林保全活動の一環である「松葉かき」で集めた松葉を堆肥化し、それを使用して野菜を栽培する「煙樹ヶ浜松葉堆肥ブランド研究会」に参加して、「松キュウリ」の生産を始めました。

3年前からは、松葉堆肥を生産する支部の部長にも選ばれ、昨年は「地方創生加速化交付金」事業を活用した松ブランド「松野菜」（松キュウリ・松とまと・松いちご）の推進のため、堆肥生産から販売まで精力的に取り組んでいます。

今後、供給できる松葉堆肥が、数倍に増えることによる「松野菜」の生産量拡大が見込まれ、販売PRなど役場や商工会などとともに、一層の販売促進に取り組む計画です。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	110a
キュウリ（ハウス）	45a
青ネギ（ハウス）	35a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	1人



キュウリ栽培



松葉堆肥

農業士として松林の保全の地域貢献と野菜のブランド化等、地域農業を少しでも良くなるよう頑張っていきたいと思います。

農業に懸ける想い

いろんな繋がりが大事!! ～ 楽しく農業をやっていききたい～

田辺市 青年農業士

平田 卓巳



1. はじめに

私は、就農して今年で15年目になります。

我が家は、柑橘と梅の複合経営で、柑橘は極早生と早生みかん、ポンカン、せとか、不知火、真夏に収穫するバレンシアオレンジまで、20種類以上の中晩柑を栽培しています。

販売は、JA出荷、JA直売所を利用しています。直売所での販売は、柑橘専用の冷蔵庫を導入して、ほぼ一年間、長期の販売が出来るよう取り組んでいます。

しかし、2年ほど前に、主として農業をやっていた父が病気で亡くなってしまい、母も加えて今まで3人でやっていた作業も、2人になると今までのように仕事がまわりにくくなってしまいました。

2. 農業への想い・取り組み

父がいなくなった分、作業の効率を上げるには、改植しかありません。我が家では、老木園、老木樹が多いので、マルチシートが敷きやすいよう計画的に改植しています。

また、何種類も中晩柑を直売所に出しているとあまり人気のない品種も分かってきます。それらも、計画的に有望品種に改植しています。そして、高所恐怖症の嫁さんもまだ1歳の息子もそのうち仕事を手伝ってくれるような畑にしていきたいと考えています。とにかく、仕事の効率化を良くすることが大切だと思います。

我が地区では、農業をしている同世代がかなり多く、高品質・高糖度のみかん作りや梅作りに熱心な人もいたため、かなり刺激になりますし、勉強にもなります。改植の時は手伝ってくれたりします。こ

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柑橘類	210a
┌ 極早生みかん	50a
├ 早生みかん	70a
└ 中晩柑	90a
梅	60a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2人



温州みかんのマルチ栽培園地



JA直売所での販売

れからも、いろんな繋がりを大事にして楽しく農業をやっていききたいと考えています。

県農林大学校学生です。

～農林大学校農学部 1年生の自己紹介&近況報告 (第1回)～

園芸学科

僕の出身は湯浅町で、実家はミカンを作っています。

僕がこの学校に入学したきっかけは、高校の夏休み中に行われていたオープンキャンパスに参加したことです。そのときに体験させていただいたモモのコンポート作りや、花のラッピングがとても楽しかったのでこの学校に入学しました。実家がミカン農家だということもあり、果樹コースを専攻しています。この学校で、ミカンの摘果やせん定の仕方などを学びたいと思っています。そのこともあり、卒業論文では、ミカンに関する事をしてみたいです。

.....



私の出身は和歌山県串本町です。

出身校は、串本古座高校で、実家が切花の生産をしています。

普段から放課後や休日に農作業を手伝ったり、小さい頃から自分の周りに花や植物があったので、農業が好きになりました。

農林大学校に入った理由は、将来農家になるために基礎的なことから学びたいと思ったからです。

卒業後すぐに農業を始めるかはまだ決まっていませんが、この2年間で学ぶことを活かせる仕事をしたいです。

最終的には地元に戻り、自分が中心となって農業生産をしていきたいです。

.....

私は紀美野町出身で、実家は露地とハウスで野菜を作っています。

農林大学校に入った理由は、将来JAの営農指導員になって新しく農業を始める農家さん達を助けていきたいからです。

農林大学校では花きコースを専攻していて、向日葵や紅花などの栽培をしています。

花のことは全然知らなかったなのでこれからいっぱい実習して知っていきたいです。

.....



僕がこの学校に入学した理由は、母方の祖父、祖母がミカン農家をしていて、自分は小さい頃からみかん関連の手伝いしていました。そして、手伝いをしているうちに、もっとミカンや農業の事について学びたいと思いました。もうひとつの理由は僕が高校三年生の時に学校の行事で進路ガイダンスと言う授業があり農林大学校の先生が自分の高校に来てくれて、大学校について詳しく説明してくれました。それで僕はもうここしかないと思い本校を志望しました。



小畑 雄二郎

僕は和歌山市出身で、今は寮生活していますが、実家は農家で、おもに米や人参、ほうれん草を作っています。

僕が、農林大学校に入学した動機は、自分の周りから次々と田畑が消えていくのを見るのが辛くて、知識などを身につけて、それを少しでも止めようと思ったからです。

将来の夢は、今手元にある田畑でコツコツと頑張っ、無農薬野菜カフェを建て、農業の良さを伝える活動をすることや、航空会社などと無農薬野菜の契約栽培をしたりしたいです。

農大で頑張りたいことは、取れる資格は絶対に取り、専攻実習で悔いなく過ごすことです。



私の出身は、和歌山県新宮市で、出身校は新翔高校です。
実家は非農家です。

農林大学校へ入学し、なぜ農業のことを学ぼうと思ったのかというと、私は体を動かすことや自然が好きだからです。そんな就職先がないかを探していた時に農業という職業を見つけました。それから私は農業がどんな仕事なのか、などを調べました。将来どんな農家になりたいかは、まだ決まっていませんが、最終的には独立してやりたいと思っています。そんな農家さんになれるように頑張ります。



近藤 楽



最田 涼巴

私は有田中央高校の農業系列経営コースで2年間農業について学びました。3年生の時には農業クラブ部長に選ばれ、色々な行事に参加し充実した学校生活を送る事が出来ました。農業系列の実習では仲間と協力し作業をする楽しさや、作業の辛さを学びました。

農大に進学した理由は、祖父母が農業をしているので、もっと知識を得ていずれ少しでも力になればという思いと、もっと沢山の作物を栽培したいという思いからです。

農大では高校で学んだ事を生かして座学や実習を頑張り、人との交流や集団行動を大切に過ごしたいです。



私の家は花のポット苗を生産しています。父が20年前にIターンで農業をはじめ、私は物心ついたころから仕事の手伝いをしてきました。花は手をかけた分、それに応じて美しく咲いてくれます。そんな花が好きで将来は後を継ぎたいと思うようになり、自分なりの販売方法も考えるようになりました。私の地域には同じ年代の農業の仲間もいません。そのため仲間づくりや、今は時代の流れが速いので花だけではなく、野菜や果樹も幅広く勉強したいと思います。



阪 口 愛花音

アグリビジネス学科

私は、紀北農芸高校出身で、高校時代は、バスケットボール同好会のキャプテンをしていました。

農林大学校に入学した理由は、高校の頃、農業について学んでいて、もっと農業について学びたいと思ったからです。

私は、高校時代は花の専攻をしていました。花についてさらに深く学びたいと思い、農林大学校でも同じ花を専攻しています。実習では、上手く花を咲かせられるように技術を身につけて頑張っていきたいです。

将来の夢は、農業関連の企業に就職して、人の役に立てるような仕事をしたいと思っています。



井谷 拓弥

.....



尾崎 弘尚

私は、非農家出身です。出身高校は紀北農芸高校で、果樹の勉強をしていました。

私が、農林大学校を志望したのは、元々植物や動物に興味があったのと、高校で農業について学ぶうちに農業に興味が出てきたのがきっかけです。

高校では果樹を勉強していましたが、農林大学校では野菜を専攻しました。農大で頑張りたいことは、やるべき事をしっかりと、第一に自分が楽しんでそのままほかの人も笑顔になれるようなことをしていきたいと思います。

将来は学校で学んだことを役立てられるような仕事に就きたいと思っています。

.....

私は非農家出身です。

紀北農芸高校時代は、花のことを学んでいましたが、農林大学校では野菜のことが気になったので野菜を専攻しています。

私が、農林大学校になぜ入学したかと言うと、高校の時に学んだことを活かしたいと思ったからです。

農大では、おいしい野菜を作れるように技術を身につけて、農大の野菜を買ってくれる人達を笑顔にできるように頑張りたいです。

将来は家で野菜を育てて、家族に食べさせてあげようになりたいです。



檀山 豊希

.....



城村 美海

私は、湯浅町出身で、家はみかんを作っています。

入学動機は、家が農家ということもあり、農林大学校で農業の勉強をしたと思い入学しました。また、入学案内のパンフレットを見て、農産物の加工や流通についての勉強ができる学科があると知り、アグリビジネス学科に入りました。

将来は、家のみかん作りを手伝いながら、みかんで新しい商品を作りたいなと思っています。そのためにも、農大で果樹の基礎的な栽培技術や農産物の加工についてしっかりと勉強していきたいです。

平成 30 年度和歌山県農林大学校 学生・研修生募集！



平成29年4月改編した和歌山県農林大学校。農学部に「アグリビジネス学科」を新設し、既存の園芸学科とアグリビジネス学科との2学科制となり、上富田町には「林業研修部」を新設し、スタートしました。今年も農林業に活力を与え、新たな価値を創造する人材の育成を行うため、新生農林大学校2年目の学生・研修生の募集を行います。

学生・研修生募集の概要

課 程	農学部(専修学校)		林業研修部
	園芸学科	アグリビジネス学科	林業経営コース
募集人員	30人	10人	10人
修業期間	2年	2年	1年
試験場所	農林大学校(かつらぎ町)		農林大学校林業研修部(上富田町)
選考試験①	推薦入学試験		前期募集
(願書受付)	平成29年10月16日～10月31日		平成29年10月16日～10月30日
(試験日)	平成29年11月6日		平成29年11月11日
選考試験②	一般入学試験		後期募集 ※前期募集で定員を満たした場合は 実施しません。
(願書受付)	平成29年11月20日～12月4日		平成30年1月15日～1月29日
(試験日)	平成29年12月11日		平成30年2月10日
選考試験③	追加入学試験 ※一般入試で定員を満たした場合は 実施しません。		追加募集 ※前期・後期募集で定員を満たした場合は 実施しません。
(願書受付)	平成30年2月26日～3月12日		平成30年2月26日～3月12日
(試験日)	平成30年3月16日		平成30年3月17日

(詳細は和歌山県農林大学校HPをご覧ください。)

～農林業に活力を与え、新たな価値を創造する～
専修学校 **和歌山県農林大学校**



お問い合わせ

【農学部】〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降422
Tel 0736-22-2203

【林業研修部】〒649-2103 和歌山県西牟婁郡上富田町生馬1504-1
Tel 0739-47-4141

和歌山県農林大学校URL: <http://www.ag-wakayama.ac.jp/>

役立つ情報

REPORT

警報級の可能性、危険度を色分けした時系列、危険度分布（メッシュ情報）

和歌山地方気象台 防災気象官 坂地 忠

近年、集中豪雨や台風等による災害が相次いで発生しています。また、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しています。これを「新たなステージ」と捉え、気象庁では「社会に大きな影響を与える現象について、可能性が高くなくても発生のおそれを積極的に伝えていく」、「危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、分かりやすく情報を提供していく」という二つの方向性をもって、防災気象情報の改善を実施しています。この中で、今年度から提供を開始した「警報級の可能性」、「危険度を色分けした時系列」、「大雨・洪水警報の危険度分布」について紹介するとともに、活用方法をお伝えします。

1. 警報級の可能性

5月から、雨・雪・風・波を対象に、5日先までの警報発表の可能性を「高（警報発表の可能性が高い）」・「中（警報発表の可能性がある）」の2段階に分け、北部及び南部を対象に毎日発表しています（図1）。市町村等の防災体制の構築、住民の大雨等に対する避難行動や心構え等への活用を想定しています。

警報級の大雨や暴風等の現象が起こる前日までに農作物や農業施設への対策に活用下さい。

平成29年 8月 6日 17時00分 和歌山地方気象台発表

和歌山県北部の警報級の可能性
北部では、7日までの期間内に、大雨、暴風、波浪警報を発表する可能性が高い。

和歌山県北部	警報級の可能性							
	6日		7日		8日	9日	10日	11日
	明け方まで	18-6	朝～夜遅く	6-24				
大雨	-	-	[高]	[高]	[高]	-	-	-
暴風	[中]	[中]	[高]	[高]	[中]	-	-	-
波浪	[中]	[中]	[高]	[高]	[中]	-	-	-

図1 警報級の可能性（平成29年8月6日発表例）

2. 危険度を色分けした時系列

今まで、警報・注意報の内容（注意・警戒期間、雨量・風速等の予想値等）は文章で発表していました。今年5月からは、文章に加え表形式でも発表を開始しました（図2）。表を見ていただければ一目で分かるように、警報級・注意報級の現象が予想される時間帯をそれぞれ赤・黄色で表示し、雨量・風速等の予想値も時間帯ごとに明示しています。また、警報に切り替える可能性の高い注意報については、通常の注意報と区別できるように黄色に赤の斜線を付けて表示しています。これらにより、警報・注意報で発表する危険度や危険な時間帯等が視覚的に把握しやすくなっています。

雨・風が強まる前に、農業施設への雨・風対策や農作業を終了し、安全な場所への避難をお願いします。

和歌山市【発表】大雨、洪水注意報
【継続】雷、強風、波浪注意報
7日昼過ぎまでに大雨警報（浸水害）に切り替える可能性が高い
7日朝までに暴風警報に切り替える可能性が高い
7日朝までに波浪警報に切り替える可能性が高い

和歌山市	発表中の 警報・注意報等の種別	今後の推移(■警報級 □注意報級)										備考・ 関連する現象
		6日		7日								
		21-24	0-3	9-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24		
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	1	20	40	40	40	80	80	30	80		
	(浸水害)											浸水注意
	(土砂災害)											以後も警報級 土砂災害注意
洪水	(洪水害)											以後も注意報級
強風	風向風速 (矢印・メートル)	陸上	13	12	15	20	20	20	20	20		以後も注意報級
	海上	18	18	20	25	25	25	25	25	25		以後も注意報級
波浪	波高 (メートル)	3	4	5	6	6	7	7	8	6		以後も注意報級 うねり
雷												以後も注意報級 竜巻

図2 危険度を色分けした時系列（平成29年8月6日発表例）

3. 大雨・洪水警報の危険度分布（メッシュ情報）

以前から発表している土砂災害の危険度を示す「土砂災害警戒判定メッシュ情報」に加え、今年7月からは、短時間に降る大雨による家屋の床上・床下浸水や道路のアンダーパスの冠水などの危険度を示す「大雨警報（浸水害）の危険度分布」、中小河川における洪水発生の危険度を示す「洪水警報の危険度分布」を発表しています（図3～5）。危険度は、黄色→赤→薄紫→濃い紫の順に高くなります。鉄道や主要な道路、河川を表示させることができますので、自分の居る場所や農地の危険度を把握しやすくなっています。

危険度が高い場合は、田畑や用水路の見回りはせず、危険な場所へは近づかないようにし、安全な場所への避難をお願いします。

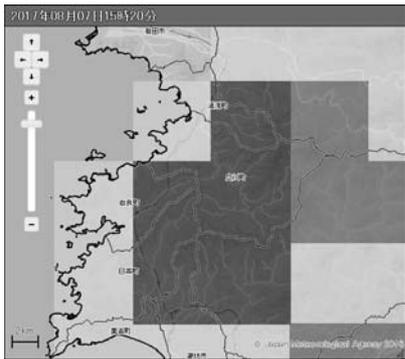
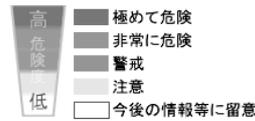


図3 土砂災害警戒判定メッシュ情報

図の見方(図3、図4共通)



- 主要な河川
- 新幹線
- JR在来線・その他
- 高速道路
- 一般国道

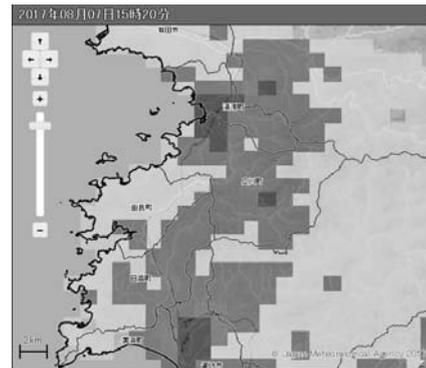


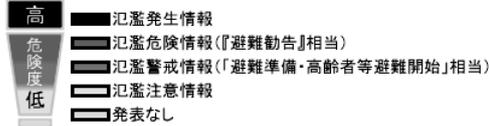
図4 大雨警報（浸水害）の危険度分布



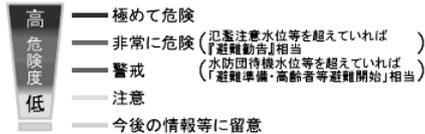
図5 洪水警報の危険度分布

指定河川洪水予報

【国や都道府県が管理する河川のうち、流域面積が大きく、洪水により大きな損害を生ずる河川について、洪水のおそれがあると認められるときに発表。】



洪水警報の危険度分布



- 新幹線
- JR在来線・その他
- 高速道路
- 一般国道

※情報はインターネット上でご覧いただけます（一部は発表時のみ掲載）。

URL、QRコードは次のとおりです。

警報級の可能性・危険度を色分けした時系列

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/keika/336.html>

土砂災害警戒判定メッシュ情報

<http://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>

大雨警報（浸水害）危険度分布

<http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

洪水警報の危険度分布

<http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>



試験研究レポート

REPORT

高糖度ミニトマトの局所加温による生産性向上

和歌山県農業試験場暖地園芸センター 園芸部 主査研究員 川西 孝 秀

1. はじめに

本県では、ミニトマトの高糖度完熟生産によるブランド出荷が行われており、市場の評価も高く高単価で取引されています(写真1)。しかし近年、原油高騰による暖房コストの増大や冬季における裂果(側面の皮や果肉が裂け、商品価値がない果実:写真2)の発生が問題となっています。

一方、大玉トマトでは、成長点を局部的に加温することで、収量を維持しつつ燃料削減が可能であることが報告されています。

そこで、高糖度ミニトマトの生産に適した局所加温法を確立するため、加温部位と生育、収量および果実品質の関係について調査しました。



写真1 高糖度ミニトマト栽培の様子
温風ダクトは通路に設置される場合が多い



写真2 ミニトマトの裂果
主に低温による成熟の長期化とハウス内の高湿度による蒸散不良で発生

2. 試験研究の内容と結果

(1) 試験方法

日高地域の主要品種‘キャロル7’を長期促成作型で斜め誘引により栽培しました。加温機からの親ダクトに子ダクトを接続して各畝の条間へ伸ばし、①成長点、②果実部、それぞれの高さにダクトを設置しました(図1)。ダクト小孔は直径6mmとして両横方向に空け、加温機からの距離による温度ムラを低減するため、小孔の間隔を、手前で長く奥で短くしました。加温機のセンサー位置はハウス中央の地表150cmとし、設定温度は10℃としました。

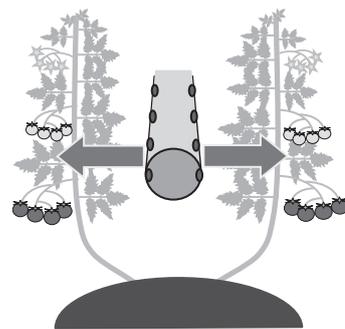


図1 局所加温(果実部加温)の模式図
ダクトは、両横方向に小孔を開けた

(2) 加温部位と温湿度

夜間の植物体の温度は、慣行と比べて成長点加温で成長点付近が約1℃、果実が約0.5℃高く、株元は約1℃低くなりました。果実部加温では、成長点付近は慣行とほぼ同等、果実で約0.5℃高く、株元は約1℃低くなり、局所加温により、各加温部位の植物体温が上昇し、株元の温度がやや低下する傾向となりました。また、加温部位周辺の夜間の相対湿度も低下傾向でした。

(3) 加温部位と生育、収量および果実品質

- ①生育（開花花房の進展）は、成長点加温で慣行や果実部加温と比べてやや速まりました。
- ②果実の成熟日数（開花からの収穫までの日数）は、果実部加温や成長点加温で慣行と比べて短縮され、特に厳寒期の果実部加温でその傾向が顕著でした（図2）。
- ③4月末までの10aあたり収量は、果実部加温>成長点加温>慣行の順となりました（図3）。1果重はすべての区で約10gとなり、M級果実の平均糖度（Brix）は、処理区間に明らかな差が認められず約9～11度でした。
- ④1～4月の裂果率は、慣行>成長点加温>果実部加温となり、局所加温、特に果実部の加温で少なくなる傾向となりました（図4）。

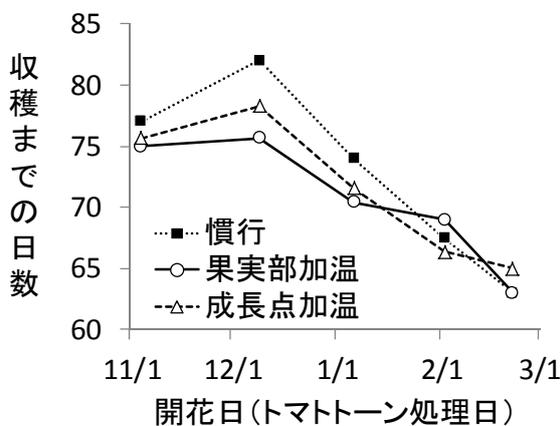


図2 加温部位の違いが果実の成熟日数に及ぼす影響

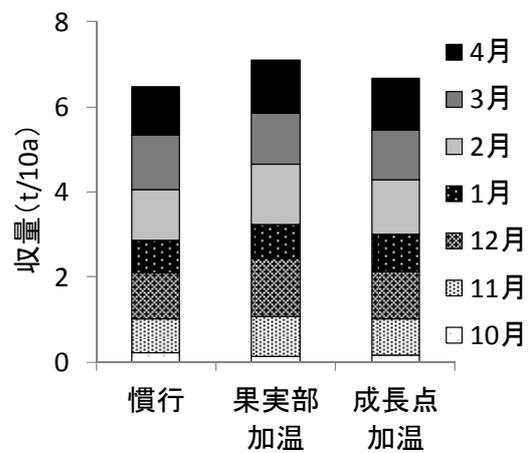


図3 加温部位の違いが可販果収量に及ぼす影響

2015年9月3日に接ぎ木苗（台木‘Bバリア’）を定植した。基肥は10aあたりN量で8kg、追肥は12月以降月1回1～2kg施用した。

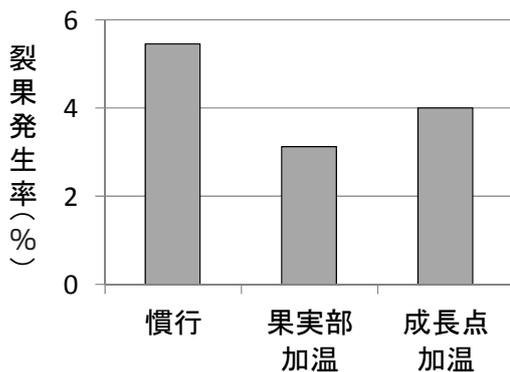


図4 加温部位の違いが裂果発生に及ぼす影響 (1～4月の平均値)

3. まとめ

以上の結果、局所加温を行うことで加温部位の植物体温度が高まり、成長点加温では生育促進、果実部加温では果実の成熟促進効果が認められ、ともにやや増収しました。また、いずれの加温法でも糖度の低下等は見られず、特に果実部の加温は裂果抑制に効果的と考えられました。今後、ダクト小孔の配置と温度分布や生育等との関係について調査を行い、効率的な局所加温技術の確立を図りたいと考えています。

試験研究レポート

REPORT

ウメ新品種「露茜」の安定生産のための枝梢管理法

和歌山県果樹試験場うめ研究所 副主査研究員 仲 慶 晃

1. はじめに

ウメ「露茜」は、現（国研）農研機構果樹茶業研究部門により育成された、他のウメ品種にはない赤色素や機能性成分を豊富に含む新しい品種です。梅酒やシロップに加工すると鮮やかな赤色の製品ができ、食品加工メーカー等から新素材として注目を集めています。しかし、従来のウメ品種と比べて樹勢が弱く、枝が下垂すると着果不良となります。また、花が群生するスモモ様の花束状短果枝（写真1）に着果するなど、他のウメ品種にはない特性があり、栽培管理技術の確立が求められています。そこで、早期かつ安定的な着果を図るため、「露茜」の特性にあった樹形と枝梢管理法について検討しましたので紹介します。



写真1 「露茜」の着花

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 仕立て方および植栽例について

「露茜」は樹勢が弱いため、一般的なウメの整枝法である開心自然形では枝が下垂し収量が減少する傾向にあります。そこで、「露茜」に適した樹形を検討したところ、主幹形仕立て（写真2）が開心自然形に比べ、幹径が太くなるため樹勢を維持しやすく、幼木期の収量性にも優れました（図1）。

主幹形に仕立てる際の注意点として、まず定植した一年生苗木を1.0 m程度で切り返します。そして、目標樹高（主幹長）は2.0～2.5 mとし、主幹と競合する発育枝は除去して先端の発育枝を垂直に誘引し、切り返しを行って強い主幹に仕立てることが重要です。

主幹形はコンパクトな樹形であるため密植栽培とし、10 a当たりの植栽本数は60本、一樹当たり収量は25 kgとして、10a当たり収量では1.5 tを目標にします。なお、ウメ「南高」等を授粉樹として利用し、植栽本数の2割程度を混植します。



写真2 「露茜」の主幹形仕立て

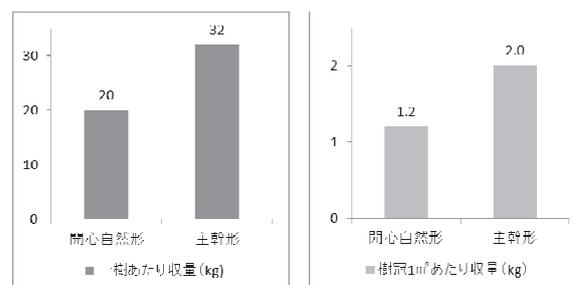


図1 主幹形仕立て樹の収量性（8年生樹）
*宮崎県総合農場試験場調査（2014）

(2) 側枝の育成について

「露茜」は、「南高」等のウメ品種とは異なる着果特性があるため、「露茜」特有の枝梢管理が必要です。「露茜」は斜立した発育枝を強めに切り返した場合に着果が良好ですが、下垂した枝では不良となります（図2）。

また、「露茜」は枝先を切り返すと着果性に優れ、玉揃いも良好となります（写真3）。加えて、2年生枝に着生する花束状短果枝には群状に着果しますが、着果後枯れ込みやすいため、早めに予備枝候補となる長めの新梢発生を促す対策が必要です（図3）。

側枝を育成するためのせん定例としては、1年枝の段階では水平から斜立に発生した発育枝の先端1/3～1/2を切り返します。2年枝の段階では枝先端の枝を1～2本とし、長めの枝は先端1/3～1/2程度を切り返して花束状短枝の発生を促します。

3年枝の段階では花束状短果枝は着果後に枝が枯れ込みやすいため、強い切り戻しや予備枝設定により、新梢の発生を促します。

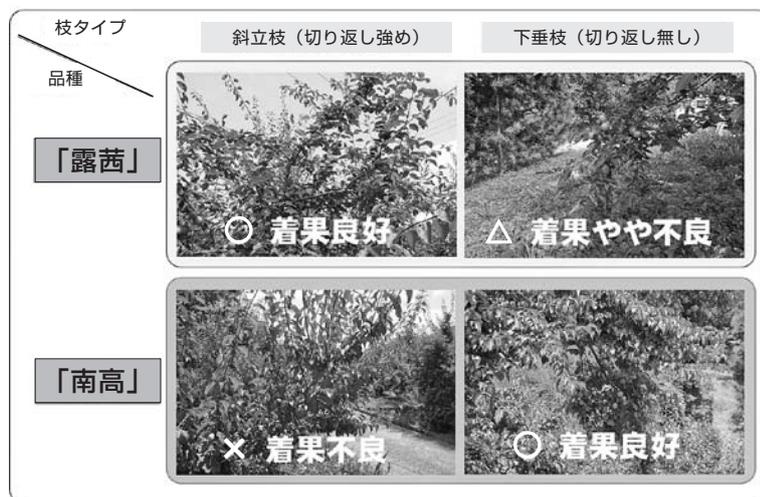


図2 枝の着生角度および切り返しの有無による着果特性による着果特性



写真3 枝の切り返しの有無と着果状況 (上：切り返しなし、下：切り返しあり)



図3 花束状短果枝が着生した2年生枝の特徴

3. まとめ

「露茜」の早期かつ安定的な着果を図るためには、主幹形仕立てとし、早めの強い切り戻しや予備枝設定等により新梢の発生を促すことで樹勢を維持することが大切です。

なお、本稿で紹介した内容について詳しく知りたい方は、栽培管理マニュアル『ウメ「露茜」の早期多収生産及び高品質果実供給技術』が、下記の農研機構のホームページに公開されていますのでご参照ください。

https://www.naro.affrc.go.jp/nifts/tsuyuakane/files/saibai_kanri_manual.pdf

普及活動レポート

REPORT

キウイフルーツかいよう病 (Psa 3) 対策について

海草振興局 農業水産振興課

1. はじめに

和海地方のキウイフルーツは海南市下津町、藤白地区を中心に約 30ha で栽培されています。販売価格は比較的高値で安定していることから、栽培面積も増加傾向にあります。このことから、JAながみね農業振興計画でカンキツとの複合品目の柱として位置づけられています。

問題となっているキウイフルーツかいよう病 (Psa3) は感染力が強く、愛媛県、福岡県、佐賀県に続き、平成 26 年 5 月に本県でも感染が確認されました。国内への侵入は輸入花粉が原因ではないかといわれていますが、確定はされていません。このかいよう病は人への影響は全くありませんが、今まで日本にあったかいよう病より病原性、感染力とも強く、特に黄色系、赤色系品種への影響が大きく、ひどくなると枯死します。

2. かいよう病症状

かいよう病の感染確認は症状が分かりやすい春に目視で行います。葉にハロー（黄色く色が抜けている部分）を伴った褐色の斑点があるかどうか確認をします。ハローが無い場合や薄い場合もあります。発生する場合は 1 枚の葉だけではなく、周り数枚に病徴が見られます。また、症状がひどくなると新梢が萎凋して枯れ込んだり、枝から暗褐色の樹液の漏出が見られます。特に若木での感染では樹液の漏出が見られることが多いです。



葉の病斑

3. かいよう病の実態把握

平成 27 年度は海草管内で JAながみね、県農、中部農業共済（現 N O S A I わかやま）、海南市、県かき・もも研究所、県農業環境・鳥獣害対策室と協力し、春季に全園調査を実施しました。

また、平成 28、29 年度は過去の発生園、疑似症状が出たものの病理検定で陰性になった園を中心に約 130 園地を抽出し、調査を行いました。

4. かいよう病対策への取り組み

平成 27 年度の調査では 11 園で発生が確認されたことから、関係機関と連携して、抜根、縮伐等の被害拡大防止対策を実施しました。その結果、平成 28 年度の発生は大幅に減少しました。また、和海地方病害虫対策推進協議会では薬剤防除や縮伐方法について記載した「キウイフルーツかいよう病防除対策マニュアル」を作成し、関係者に配布し、感染拡大防止の啓発を行いました。

防風ネットの設置と収穫後からの薬剤防除の徹底により大幅に発生を抑えられた現地事例があることから、平成 28 年度の発生園で冬期ボルドー 4 回散布(収穫終了後、剪定前、剪定後、発芽前)を軸とした防除対策の研究を始めました。

その処理方法は

- ①発生部位の大幅な縮伐後に 4 回の薬剤散布
- ② 4 回の薬剤散布後の春に縮伐
- ③通常の薬剤散布

としました。

この結果、平成 29 年度の発生調査では①の大幅な縮伐後の薬剤散布したほ場では発生が確認されませんでした。また、②の 4 回薬剤散布のほ場では前年より発生が減少しており縮伐後もある程度の枝を残すことができました。③の慣行防除のほ場では前年より感染が拡大しており、縮伐を進めると枝が無くなってしまいう様な状態でした。

このことから、発生園の対策としては、大幅な縮伐後に冬期ボルドー 4 回散布を行うことで、病害抑制効果が早く得られることが確認されました。また、冬期 4 回の薬剤散布後に春期縮伐を行う場合は、年数がかかりますが大幅に生産量を減らさずに病気の抑え込みができると思われますので今後も引き続き調査を行い、確認していきます。

今後とも関係機関と連携のうえ、キウイフルーツかいよう病 (Psa3) の撲滅に努めたいと考えます。

キウイフルーツかいよう病 防除対策マニュアル 和海地方病害虫防除対策推進協議会 (平成28年5月)

平成28年5月に病原性の強い新系統(Psa3)の発生が本県においても確認されましたので、まん延防止の徹底を図るため、防除対策に取り組みましょう。



キウイフルーツかいよう病の症状
(左:茶褐色の斑点、中:新梢の黒変や枯死、右:樹液の漏出跡)

- キウイフルーツかいよう病は、細菌性病害であり、枝、幹、新梢、葉、蕾や花に感染します(果実には感染しません)。
- 品種によっては新梢や樹幹などが枯死するなど、収量を著しく低下させる恐れがあります。
- 本病は、強風や雨で伝染するほか、ハリミなどの器具類、苗木や樹本などを経由して感染が拡大します。
- 2月以降、剪定の切り口、枝、幹では、菌肥や樹液が漏出し、その後暗赤色に変色することがあります。4月になると、葉に茶褐色の斑点が見られ、健全部との境界が喪失することがあります。また、伸長中の新梢では黒変や枯死の症状がみられます。
- 病原菌の越冬適温は10～20℃で、生育度は気温によって変化し、4月～5月に最も高く、25℃を超える7月～8月に最も低くなります。気温が低下する10月頃から再び生育度が急速に高くなり、初冬の凍害期まで増加します。
- 人や動物には感染しません。果実を食べても心配ありません。

対策マニュアル



目視での調査

普及活動レポート

REPORT

キウイフルーツの安定生産に向けて

那賀振興局 農業水産振興課

1. はじめに

和歌山県においてキウイフルーツの栽培は全国4位の生産量を誇り、その中でも紀の川市は県内で一番の産地です。近年、キウイフルーツは比較的高単価で取引されていますが、キウイフルーツかいよう病（Psa3）をはじめとする新たな病害虫が確認されるなど、安定生産に向けた対策が急務となっています。そこで、当課では、平成27年度より防除の啓発、薬剤試験、検討会の開催などの取り組みを行っています。

2. 普及活動の経過、活動内容と成果

1) キウイフルーツかいよう病対策

J A や市町等の関係機関と連携し、平成27年度に管内のキウイフルーツ栽培園548園地を調査し、早期発見とまん延防止に努めました。翌年度以降も比較的発病しやすい赤、黄色系のキウイフルーツ栽培園や、過去の発生園を中心に継続して調査を行っています。

また、生産者への防除啓発のチラシ配布や、J A のキウイフルーツ生産者部会での防除指導などを行い、防除啓発にも努めています（写真1）。



写真1 部会での防除啓発

2) キウイフルーツ根腐病対策

キウイフルーツ根腐病は、土壌中のカビが原因であり、多雨や梅雨明け後の高温で発生が助長されると言われています。また、改植しても再発する可能性があります。

そこで、抵抗性台木であるシマサルナシ台木を植栽した展示圃を設置し、効果を調査しました。そ

の結果、シマサルナシ台の方がヘイワード共台と比べ、明らかに枯死が少ないことが確認できました（表1）。また、調査結果については、J A 紀の里の営農活動大会で発表を行いました。

表1 シマサルナシ台木の根腐病に対する効果

	枯死数/試験数	
	6/23調査	7/21調査
ヘイワード共台	3/6	4/6
シマサルナシ台木	1/6	1/6

植栽日：2015年12月18日

試験樹：ヘイワード共台とシマサルナシ台の1年生苗を1区につき6樹供試した。

3) 有機栽培園におけるキウイフルーツヒメヨコバイ対策

(1) 有機の取組

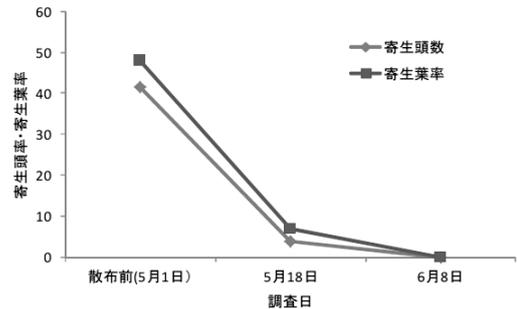
管内では、紀ノ川農協のキウイフルーツ部会の生産者（9戸）が有機栽培に取り組んでいます。

有機栽培では、化学合成農薬が使用できないため、慣行栽培ではほとんど発生しない病害虫が問題となることがあります。その中でもキウイフルーツヒメヨコバイは、数年前に確認された新しい害虫になります。葉を吸汁することにより樹勢を低下させ、発生がひどくなると有機栽培を続けることが困難になる場合があります。

(2) 試験結果

有機栽培では使える薬剤が限られており、今回、デンプン水和剤の使用を検討しました。

散布前の調査では多発していたキウイフルーツヒメヨコバイが、散布後の6月8日時点では寄生成虫が認められなかったことから、一定の効果を確認することができました（図1）。ただし、残効性はないため、新たに孵化する幼虫に効果がなく、薬剤の散布回数が多くなることが課題です。



注) 散布日: 5/1、5/11、5/26 散布濃度: 500倍
調査: 1樹につき50葉の寄生成虫頭数を調査し、1葉あたりの寄生頭数を算出。
寄生率を算出。
試験区: 1区1樹4反復

図1 試験結果

(3) 生産者との検討会

キウイフルーツ有機栽培の生産者に上記の防除効果を説明し、対策方法を共に検討しました（写真2）。

有機栽培では散布できる薬剤が限られるため、なかなか決め手となる対策がないのが現状です。

3. 今後の取り組み

キウイフルーツかいよう病やキウイフルーツ根腐病については、引き続き発生園の調査と防除の啓発等、まん延防止に努めます。

キウイフルーツヒメヨコバイについては、有機栽培園の巡回を行い、園地条件や栽培方法の違いを確認し、耕種的な防除を検討していきます。

これらの普及活動を推進することで、管内のキウイフルーツを安定生産へと繋げていきます。



写真2 生産者との検討会

普及活動レポート

REPORT

学校給食に地元農産物を ～栄養士と生産者をつなぐ活動～

伊都振興局 農業水産振興課

1. はじめに

地元で生産された農産物を学校給食に活用する取り組みは、子供が地域の特産品を知り、農業への理解を深めるとともに、伝統的な食文化を味わい、地域への愛着を深める等を目的に、「食育」活動の一つとして全国的に展開されています。

伊都地方では、橋本市生活研究グループが会員の有志で農産加工グループを結成し、平成7年から米みそを学校給食に供給しています。

平成17年に振興局が橋本市の給食に黒米の利用を推進した際、栄養士から「地元の野菜も使いたい」との相談を受け、生産者とともに学校給食の取り組みを始めたので、その活動について紹介します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 給食の現状把握

まず、課内で地元農産物を安定的に供給する仕組みづくりについて検討を行いました。

給食で使用する野菜の種類と使用量、その料理を把握するため、栄養士から前年度の同月の実績を入手するとともに、翌月の献立が決まり野菜の使用量がわかる時期や搬入方法等の聞き取りを行いました。

そして、JAと話し合うとともに野菜を供給できる生産者として、「出塔柏原営農研究会（以下、営農研究会）」に声をかけることにしました。この団体は本格的に野菜作りに取り組みたい農家を募集して結成されたグループで、毎月定例会を開催して振興局やJAの指導を受けながら野菜の生産技術の向上に努めています。

(2) 学校給食納入部会結成

平成17年12月に野菜担当の普及指導員が営農研究会に対して地元農産物を学校給食へ供給する意義とスケジュールについて説明し、給食センターから注文のあった野菜の出荷者を募り、1月に大根と白菜を納入しました。

振興局は栄養士と協議して品目毎に給食向けの出荷規格を作成するとともに、2月には小学生と生産農家が交流する機会として、給食交流会を開催しました。

回数を重ねるうちに会員の中で意見の相違が出てきたため、有志で学校給食納入部給食部会（以下、給食部会）」の結成を働きかけました。平成18年度から学校給食用食材納入業者として橋本市と契約し、2箇所の給食センターへ野菜や果実を供給しています。

給食センターや会員への連絡は役員で行っています。

(3) よりよい給食実施のために

毎年7月に給食センター長、栄養士、給食部会、振興局等が集まって情報交換会を開催し、問題点の話し合いや新しい品目の提案を行っています。

給食部会では有機質肥料を使ったり、極力農薬の使用量を減らす等、特に子供が食べるということで安全な農産物を作るというこだわりを持って栽培しています。

振興局では農作業の省力化のための苗の移植機導入等の支援を行いました。

学校給食納入部会の概要

会員	10名
納入先	橋本市学校給食センター2カ所 (3,250食、1,800食) きのかわ支援学校(270食)
調理数	合計 約5,300食
平成28年度は	36品目、約45tを納入



野菜を搬入する部会員

平成20年度から学校給食週間に給食部会、農産加工グループ、黒米生産者が小学校を訪問し、給食の時間に農産物の説明をする給食交流会を開催しています。

当初は振興局が教育委員会へ働きかけて実施していましたが、平成25年からは給食センターが主となって実施しています。



給食交流会で説明する部会長

(4) 地元産農産物利用拡大のために

振興局では平成20年度に管内の学校栄養士や生産者グループに地元産農産物や加工品、柿利用状況について聞き取りを行いました。

その結果、当地方特産の柿については、皮をむくのに労力と時間を要するため、調理数の多い橋本市では年に1回しか使っていませんでした。

そこで、学校栄養士らに電動皮むき機の導入と柿料理レシピを提案したところ、平成21年度から徐々に柿を使った料理が増えてきました。平成28年度には2箇所の給食センターで31回の柿料理が実施されました。また、柿カレー用には調理時間短縮のため、皮をむいた冷凍柿の使用の提案も行いました。

給食部会では、紀の川柿、たねなし柿、富有柿を学校給食センターへ納入しています。

3. 今後の取り組み

橋本市の学校給食センターは、平成30年9月から新設の給食センターに統合され、市内小中学校4,800食の調理を1ヶ所で行うこととなります。1回の納入量が増えるため、給食部会では今までと同様に供給できるか、不安があります。

そのため、振興局では作付計画の見直しや栽培技術向上、会員への発注等の運営事務の効率化について推進するとともに、今後とも学校栄養士との連携を密にして地元農産物の給食利用拡大を図ります。

普及活動レポート

REPORT

有田農業女子プロジェクトの取り組み ～女性の力で地域をもっと元気に！～

有田振興局 農業水産振興課

1. はじめに

有田地域の基幹的農業従事者数*は6,368人であり、そのうち女性農業者は3,023人と47%を占めています（H27農林業センサスより）。一方で、農業士数は218人と県内で最も多いものの、女性農業士は11人に留まります。

そのような中、普及指導活動を通して、女性農業士や新規就農者から「周囲に同年代の女性農業者がいない」、「研修会に参加しても、男性ばかりで質問があっても発言しづらい」、「困ったことがあっても誰に相談していいのかわからない」といった悩みや相談が寄せられました。

そこで当課では、これらの悩みを解決するため、農林水産省の「農業女子プロジェクト」を参考に、「有田農業女子プロジェクト（以下、女子Pとします）」に取り組んでいます。
*農業就業人口のうち、普段仕事として主に農業に従事している者



女性農業者の力が必要

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) プレイベント

女性農業者を対象とする研修会等の需要を調査するため、平成29年3月7日にプレイベントを開催しました。

当日は、農業士の配偶者及びその友人を中心とした16名が参加し、果樹試験場栽培部の田嶋主査研究員による「近年話題の中晩柑品種について」の講演のあと、「女子Pでやってみたいこと」等についてグループで意見交換を行いました。

アンケート調査結果では、「女性が対象の農業に関する研修会があれば参加したいと思いますか？」の設問に対し、全員が「参加したい」、又は「どちらかといえば参加したい」と回答しました。また、研修会の内容については、「鳥獣害対策」や「農作業機械（農作業安全）」等の需要が高いことがわかりました。



中晩柑の試食会

2) 第1回研修会

プレイベントを踏まえ、平成29年7月7日に有田地方農業士協議会女性部会の後援を得て第1回研修会を開催し、女性農業者22名が参加しました。

当日は、大塚製薬株式会社の久富健太氏による「熱中症の予防と対策」についての講演の後、女性農業士4名の協力のもと、意見交換会を行いました。「女性用農作業着のデザイン」や「ジビエの利用方法」について考える研修会を要望する意見が得られました。

女性農業士は、意見交換会の流れをスムーズにするために話題を振るだけでなく、知識や経験をもとに参加者の疑問や悩みにアドバイスしていました。参加者からは、「初めてで、お喋りも苦手だけど楽しく過ごせた」といった感想が寄せられました。



意見交換会



当日の参加者

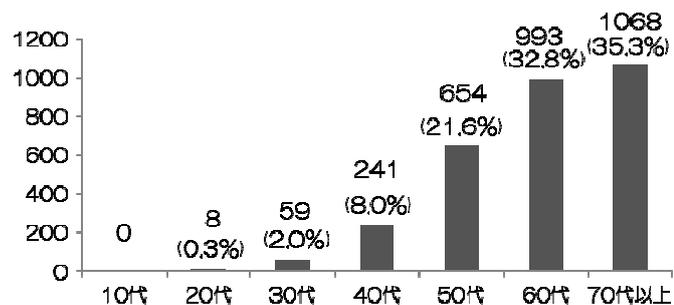
3. 今後の取り組み

女子Pはまだ始まったばかりですが、農業に関する知識や技術を身に付けるだけでなく、普段あまり関わることのない女性農業者が交流する「気軽に参加できる会」として地域に定着させることが目標です。

研修会は年間3回を予定しており、毎回グループに分かれて意見交換会を行います。参加対象は、同年代の知り合いをつくりやすくするため、管内在住の概ね45歳以下の女性農業者としています。年齢については、地域農業の担い手として育成するため、経営計画を認定し就農当初から重点的に支援する「認定新規就農者」制度の年齢基準を参考にしました。なお、対象者は子育て世代でもあるため、来年度からは「一時保育ルーム**」を利用するなど、より参加しやすい環境を整えていく予定です。

いずれは、有田地域を中心とした県内の企業とコラボして商品開発にも取り組み、地域を更に盛り上げていく活動を進めたいと考えています。また、活動の中で農業士に認定されるような人材の発掘も併せて行っていきます。

**県において開催される各種の行事の際に、その参加者の児童（原則、1歳から小学2年生まで）を一時的に預かる保育室を設置するもの。）



有田地域の基幹的農業従事者数（女性）の年齢構成（人）

普及活動レポート

REPORT

果樹新品種導入による産地活性化の取り組み

日高振興局 農業水産振興課

1. はじめに

日高地方では由良町、日高川町を中心としたカンキツ産地とみなべ町を中心としたウメ産地が形成されています。

管内のカンキツは地元発祥の温州みかん「ゆら早生」から始まり、中晩柑類の「不知火」、「八朔」等まで、長期間にわたり出荷されている中で、新たに9月中下旬に収穫が可能で良食味の極早生温州の新品種「YN26」の導入を進めています。

また、ウメ産地においては、品種が「南高」に特化しているため、梅干し用途以外の梅の新たな需要開拓を目的に有望な新品種として「露茜」の導入に取り組んでいます。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

《かんきつ産地の取り組み》

県果樹試験場で育成された「YN26」は、「ゆら早生」の珠心胚実生で「ゆら早生」より減酸が早く早期出荷品種として有望です。

そこで早期に産地導入するため、JAや県農と協力し、平成24年から高接樹で果実品質調査を始めました。平成27年からは苗木樹が初結実したため、現地実証園を設け苗木樹の調査も行っています。

調査の結果、「YN26」は高接樹、苗木樹とも「ゆら早生」と比べて減酸が早く9月中旬頃から収穫できるこ

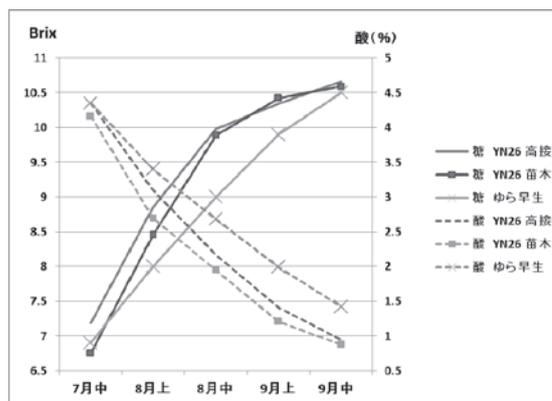


図1 糖 (Brix) と酸の推移 (日高川町調査園)

注) YN26 高接ぎは H24 ~ 28 の平均値
YN26 苗木は H27 ~ 28 の平均値
ゆら早生は H12 ~ 28 の平均値



「YN26」の結実状況



実証園での果実調査

とが確認できました。平成 27 年産からは「紀のゆらら」として出荷し、高単価で販売されています。なお、日高管内の栽培面積は約 5.9ha (H28) と増加傾向です。

《うめ産地での取り組み》

振興局では、普及の重点プロジェクト「梅の高付加価値化と複合経営の推進」の中で、果皮・果肉ともに赤色色素が豊富で梅干以外の加工品開発が期待できるウメ新品種「露茜」の普及を進めています。「露茜」は、農研機構果樹研究所が育成したスモモ×ウメの交雑品種で、シソなどを添加しなくても赤い梅シロップや梅酒などの加工品を作ることができます。

生産の推進とともに、果樹試験場うめ研究所やJA、みなべ町と協力し、実証園を設置し、収量性や結実特性の調査、うめ研究所が特許を取得した追熟処理技術の現地試験を行っているところです。

「露茜」の出荷量は、平成 29 年産で約 5 トンと年々増加しています。

表 1 「露茜」の年度別 出荷実績 (単位トン)

	H27 年	H28 年	H29 年
集荷開始日	6 月 8 日	6 月 9 日	6 月 12 日
集荷実績 (t)	1.8	3.1	5.2

また、熟期が進んだ果実よりも、着色始め～4分着色時期に収穫、追熟させる方が果肉の赤色が良好になるため、パンフレットによる生産者への適期収穫の啓発を行うとともに、集荷場での大量追熟法の検討、輸送中の追熟確認試験等を行ってきました。その結果、安定して果実の赤色を発色させられるようになってきました。

取引先では、その特長を活かした色鮮やかな梅シロップや梅酒が生産販売され始めています。

3. 今後の取り組み

「YN26」については、減酸が早いこと、想定より樹勢が良いことが確認できたため、高糖度化のため本年産から実証園でマルチ栽培の試験を始めました。今後も「YN26」の品種特性の解明と高品質安定生産技術の確立に向け調査を続ける予定です。

「露茜」については、引き続き安定生産技術の検討、需要に応じた生産量の拡大に努めるとともに、新しい需要の拡大に取り組んでいきます。



「露茜」の結実状況



実証園での収量調査



追熟試験での調査・選別

普及活動レポート

REPORT

イタドリ(通称:ゴンパチ)の栽培推進に向けた取組

西牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

身近な山菜として当地域で親しまれているイタドリは、いたる所で自生していますが、乱獲やシカによる食害等により自生する太くて商品価値の高いものが年々採れにくくなってきています。しかし、栽培は可能で栽培労力も少なくすむことが県林業試験場の研究でわかりました※。

一方、中山間部では耕作条件の悪い農地が多く、耕作放棄地が増えています。

そこで、このままでは耕作放棄地となる、あるいは既に耕作放棄地となった農地を中心に、県林業試験場と連携しながらイタドリの栽培を推進しています。

※イタドリの栽培方法

地下茎を冬に掘り起こして10cmほどの長さにカットし、直接畑へ定植するか、ポット苗にして育苗し、梅雨明け前までに定植します。定植後の管理は、主に年2回の追肥と冬に枯死した茎を刈り取るだけと非常に少ない労力で栽培可能です。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

(1) 栽培実証ほの設置

田辺市龍神村宮代の休耕田に、地下茎から育てたポット苗50株を平成27年6月に定植し、栽培管理をしながら生育調査をしています。

シカが好んでイタドリを食べることから、防護柵を設置していますが、定植翌年、ウサギに柵のワイヤーメッシュ(#100mm)から侵入されて食害されました。このため、ワイヤーメッシュに地際から60cmの高さまで金網を巻き付けました。それ以降、食害はありません。



写真1 収穫間近の新芽



写真2 3m近くまで大きくなった地上部

前年にウサギにより食害されましたが、本年4月には10aに換算して225kgを初収穫できました。7月には、草丈は大きいもので3mを越えるまでに生長しています。

(2) 栽培拡大に向けた取組

栽培を推進するため、市町やJAの関係機関等に栽培実証ほどの生育状況や栽培方法を説明したり、JA紀南を通じて栽培希望者を募ったりしました。また、栽培希望者には振興局で用意した苗を配布し、栽培方法を指導しました（田辺市本宮、田辺市中辺路、上富田町市ノ瀬の希望者へ配布）。

その結果、西牟婁地方の栽培園は、今年から新たに6園で栽培が始まり、2園から8園と大幅に増加しました。



写真3 上富田町での定植風景

(3) 保存方法や調理方法の調査

保存や調理についてより良い方法を知るため、イタドリを直売所等に出荷している、あるいは加工に取り組んでいる農家にアンケート調査を実施しています。

3. 今後の取り組み

継続して栽培指導するとともに、栽培実証ほどでは栽培管理と収量調査を継続することに加えて研修会を開催します。

また、保存方法や調理方法のアンケート調査を取りまとめるとともに、より良い方法を検討して加工マニュアルを作成します。

4. その他・参考・留意点

(1) 栽培技術マニュアル

県林業試験場が平成28年度に作成しました。必要な方は当試験場特用林産部までお問い合わせください（TEL0739-47-2468）。

(2) 栽培園地の選定

イタドリを一度植えてしまうと、絶やすことが難しく元の畑や水田に戻すことは困難です。さらに、3m以上の高さまで大きくなるとともに地下茎を伸ばして増えるため、周りの園地に迷惑がかからないような場所で無ければなりません。このことを十分考慮して植え付ける場所を選びましょう。



写真4 栽培技術マニュアル

普及活動レポート

REPORT

野菜産地の育成強化

東牟婁振興局 農業水産振興課

1. はじめに

東牟婁地域では地産地消による地場市場出荷を対象にした野菜のミニ産地の育成に取り組み、イチゴ、ナス等 15 品目が「くろしお熊野やさい」として栽培・出荷されています。しかし、生産者の高齢化・担い手の減少により、産地が縮小傾向にあります。

そこで、産地の維持拡大を図るため、後継者の育成、高設栽培導入による省力化及び規模拡大に取り組みました。また、管内の耕作放棄地面積は県全体の 10% を占めており、耕作放棄地解消に向けた露地野菜としての産地育成にも取り組みましたので、その活動について紹介します。

2. 取り組みの経過、活動内容と成果

1) イチゴの栽培推進及び担い手育成

①栽培推進（くろしお苺生産販売組合）

産地の維持拡大を図るために高設栽培装置の導入による省力化と規模拡大に取り組み、JA、市町村と連携し野菜花き産地総合支援事業の導入を推進しました。

栽培面積 102 a、栽培農家数 12 戸

表 1 平成 26～28 年度事業導入実績

	受益戸数	対象面積
高設栽培装置の導入	3 戸	20a
パイプハウスの高度化	3 戸	11a

②担い手育成（JA トレーニングファーム）

平成 28 年 5 月から就農希望者 1 名が JA トレーニングファームにおいてイチゴ、ホウレンソウの栽培研修を 1 年間受講、研修生に対し助言・指導・就農相談を行いました。なお、研修生は平成 29 年 11 月に就農を予定しています。



写真 1 イチゴ高設栽培



写真 2 トラクター操作講習



写真 3 ニンニク栽培講習会

2) 耕作放棄地解消に向けた露地野菜の推進

①ニンニク栽培推進（古座川町ニンニク生産組合、串本町ニンニク生産組合）

栽培講習会や他産地の情報を参考に現地確認をしながら高品質生産に向けた検討を行いました。また、土づくり推進のため緑肥作物展示圃を1ヶ所設置し、ソルゴー2品種を検討しました。

栽培面積 7.4ha、栽培農家数 27 戸

②ミニ産地野菜の維持拡大

（くろしお熊野やさい生産グループ）

京都府京田辺市においてナス、オクラ、アスパラガス等の生産について先進地調査を行いました。また、各生産グループの講習会や現地検討会により栽培技術を検討しました。

栽培面積 2.97ha、栽培農家数 23 戸



写真4 先進地研修（京都府）

3. 今後の取り組み

引き続き、JAと連携した担い手の育成や、野菜花き産地総合支援事業を活用して産地の維持拡大を推進していきます。また、関係機関と連携し耕作放棄地解消に向けて、ニンニク、ミニ産地野菜などの露地野菜の推進を行っていきたいと考えています。



和歌山県農林大学校

学生ブログ

～学生が日常の学校生活や
作物の生育状況についてお知らせします。～



地域の逸品!!

和歌山からヘルシーな南国果実を アボカド接ぎ木苗、アボカドアイス

紹介者

海南市下津町 元指導農業士
橋 爪 道 夫



接ぎ木苗

1. 商品の紹介

橋爪農園は、海南市下津町で野菜ではキュウリの水耕栽培やその漬物、果樹ではアボカド、ホワイトサポテ等の生産、またその苗木、アイス等の販売を行っています。また、カンキツやキウイフルーツも栽培しています。

色々栽培している中でも、今回はアボカドをご紹介します。

アボカドはハワイだけでも1,500種以上あると言われており、海外では一般的な果実です。最近では日本のスーパーマーケットでも必ず見られるようになりました。アボカドは「森のバター」といわれるほど、脂肪分が多いのですが、それは血中コレステロールを増加させる心配の無い脂肪です。また、抗酸化作用のあるビタミンEも豊富なのでヘルシーな果実として、人気があります。スーパーマーケットで一般に販売されている品種は「ハス種」です。皮が固く長距離輸送に向くために輸入アボカドとして出回っています。数ある品種の中でも当農園が主に扱っているのは「ベーコン種」です。特に耐寒性に優れており、「ハス種」よりもクリーミーでまろやかな味です。しかし、国内ではあまり見ることはできません。そのために「幻の国産アボカド」と言われて、輸入果実より高価格で取引されています。

栽培に適するのは霜が当たらない南受けのほ場です。栽培の注意点は定植から活着までは乾燥させないように十分にかん水することです。クスノキ科であり、樹が巨木となるので、2m程度で摘心してあまり大きくならないように育てます。カメムシの被害にも注意が必要です。

アボカドアイスは年間400個程度の限定販売となります。

アボカドは元々脂肪分が多いことに加えて、ミルクと相性が良く、当園のアボカドアイスはクリーミーで、それでいて、さっぱりとしたさわやかな甘さに仕上がっています。

アボカド果実は11月から、アボカドアイスは12月からインターネットやJ Aながみね「とれたて広場」で販売しています。接ぎ木苗はインターネットで販売しています。



アボカドアイス

2. お問い合わせ先

橋爪農園

〒649-0151 和歌山県海南市下津町中 385

TEL : 073-492-1169 FAX : 073-492-2965

ホームページ

<http://avocado-hashidumenouen.com/>

[yahoo] アボカドの橋爪農園

<https://store.shopping.yahoo.co.jp/abokado-1169/>

地域の逸品!!

野菜いっぱい金山寺味噌、 田舎のおふくろ味の味噌、 郷土料理の小麦餅

紹介者

橋本市 元指導農業士

三浦昌子



1. 商品の紹介

今から35年位前、当時生活改善友の会で、普及所の先生（普及指導員）から指導を受けて作り始めた金山寺味噌作り。

当初は自家用やお使い物用（贈答用）でしたが、地元の農産物販売所や「やっちゃん広場」の開店で販売先が確保でき、一年間を通して販売するため、金山寺味噌は夏野菜（白瓜・ナス・キュウリ等）を収穫する頃に、田舎味噌は1～2月に寒仕込みで作っています。

材料の米、モチ米、野菜は自家生産で賄っています。餅は、正月用の白餅、鏡餅（12～1月）、草餅（3～5月）、小麦餅（6～7月）と時期をずらして製造しています。特に、小麦餅は、当地の郷土料理で、半夏生の頃（夏至から11日目）に田植休みと秋の豊作を祝って、手伝ってくれた方や親戚等に配ったものです。いずれの商品も保存料は一切使用していません。

時々、ご購入いただいたお客様で思いもよらない遠方からお電話を頂くこともあって励みになっています。

主力商品のラインナップ

	規格	価格(円)	加工時期	販売期間	特長
金山寺味噌	200g	400	夏野菜収穫の頃	1～12月	地場野菜いっぱい
田舎味噌	400g	400	寒仕込み	1～12月	懐かしいおふくろの味
白餅	6個入	310	12月(正月用)	12～3月	地場産モチ米使用
草餅	6個入	370	4月(ヨモギの頃)	3～5月	ヨモギ入りで柔らかい
小麦餅	6個入	370	6月(田植えの頃)	6～7月	伊都地方の郷土料理

(注) その他の商品：鏡餅、ふきの佃煮、夏みかんのマーマレード 等

近頃、米の販売価格の低迷により、我が家では益々加工が重要になっており、味噌や餅等の加工品が収入源の一つになっています。

平成12年には加工場を新設し、製造業の営業許可（菓子、惣菜、味噌）を取得。今後もより一層、衛生管理に気をつけて、味の良いものを作っていきたいと思っています。



金山寺味噌



田舎味噌



郷土料理の小麦餅



2. お問い合わせ先等

〒649-7212 和歌山県橋本市高野口町上中173 三浦昌子（電話 0736-42-4544）

商品の取扱店 JA 紀北かわかみ「やっちゃん広場」、よってって（高野口店・九度山店）

地域の逸品!!

和歌山初の本格芋焼酎!

紀州宮子姫

紹介者

御坊市 地域農業士

宮井 広行

1. 商品の紹介

御坊市名田町産のサツマイモで作られた芋焼酎「紀州宮子姫」は、ほのかに甘くて口当たりがよいと評判です。芋焼酎派の方にぜひお試しいただきたい逸品です。

「紀州宮子姫」は、名田町の遊休農地を活用して地域を盛り上げようと平成18年に17人の農業者が立ち上げたグループ「段々畑」が丹精こめて育てたサツマイモ「コガネセンガン」を原料に、芋焼酎の本場宮崎県の高澤醸造が仕込んだ本格焼酎です。

畑が多い名田では、もともとサツマイモの栽培が盛んでした。この地域の特性と昨今の焼酎ブームをマッチさせ、「道成寺」に伝わるかみなが姫伝説の主人公の名を冠して和歌山に無かった本格芋焼酎が誕生しました。

平成19年の発売から今年で10年目を迎え、出荷量は1,500本/年、720ml入りボトル1,500円（税別）で販売しています。「段々畑」のメンバーの熱い取組みに想いを馳せ、一献傾けていただければ幸いです。

2. お問い合わせ先等

ワインショップカタヤマ

〒644-0003 御坊市島220-4

TEL 0738-22-0608 FAX 0738-22-0612

AM8:00～PM7:00

定休日：日曜日

HP <http://wineshop-katayama.com/>



紹介者の宮井広行さんと「紀州宮子姫」



サツマイモを収穫する「段々畑」のみなさん

地域の逸品!!

「くしもとぽんかんジュース」

紹介者

串本町 指導農業士

橋 爪 和 雄



串本町重畳山のポンカン

本州最南端の町、和歌山県串本町の温暖な気候で栽培されるポンカンは高しょう系と呼ばれる品種で、大きく果梗部が突出したりする球形に近い果実が特徴です。果汁は甘味に富んで、酸が少なく高い芳香があり、風味に優れています。

1. 商品の紹介

「くしもとぽんかんジュース」はポンカンを100%使用したストレートジュースで、900g入りの瓶は、果実約30個分を贅沢に使っています。香りの良さと甘味をいかし、すっきりとした味わいです。

2006年に串本町でポンカンを栽培する19戸の農家が「重畳山果樹生産加工組合」（組合長：中村省一）を組織し、組合員が運び込み水洗いしたポンカンを搾汁機に入れ、搾った果汁を加熱殺菌した後、充填機で瓶詰めしています。

「くしもとぽんかんジュース」は、毎年約1万本製造し1月下旬頃から町内の観光施設等で販売しています。

また、道の駅「くしもと橋杭岩」ではソフトクリームにぽんかんジュースを混ぜたポンカンソフトクリームが大変好評です。

2. お問い合わせ先等

重畳山果樹生産加工組合

〒649-4124

東牟婁郡串本町伊串

TEL 0735-72-0788

3. 主な販売店

○道の駅「くしもと橋杭岩」

○道の駅「一枚岩」

○JA紀南Aコープ「VASEO」（串本町）



「くしもとぽんかんジュース」
大瓶（900g）と小瓶（180g）

農業関係制度の紹介

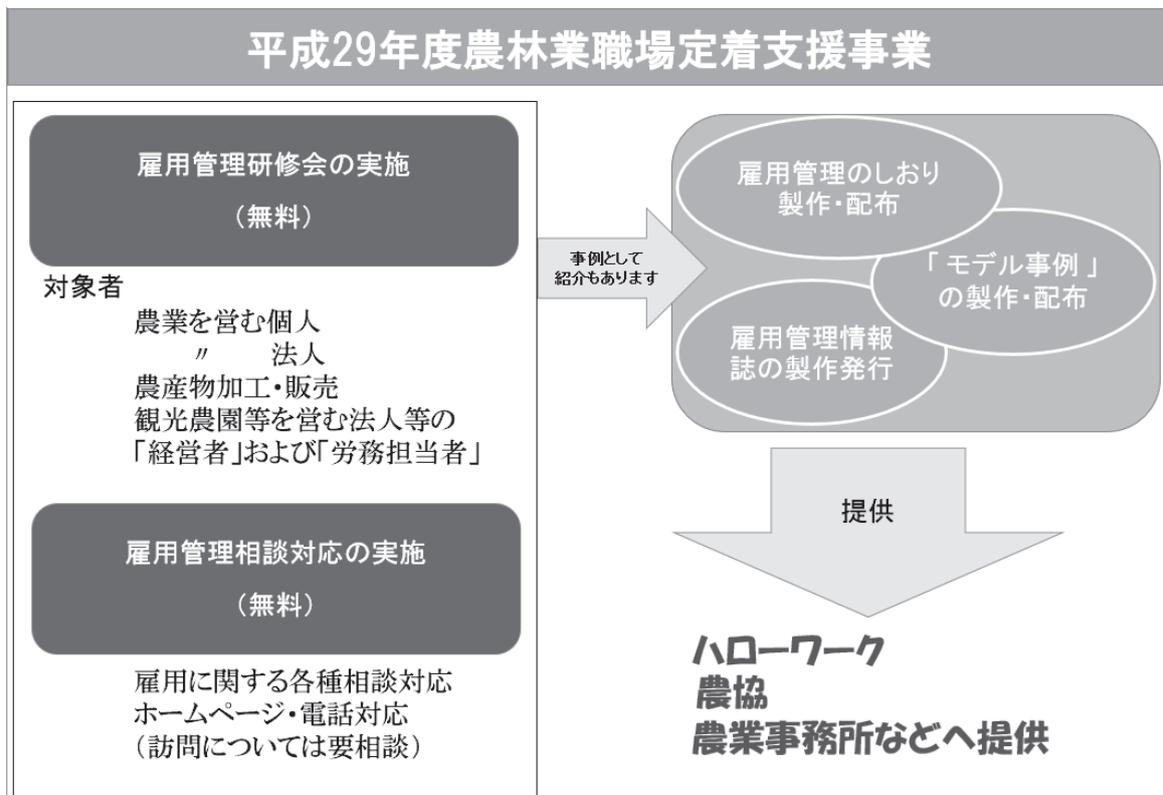
雇用に関する事、何でも相談できます！

<<厚生労働省 農林業職場定着支援事業>>

株式会社日本旅行 ECP 営業部

農業を営む方々の「雇用の定着」を目的に下記の事業を行っております。

- ①経営者様向けの雇用に関する研修会の開催（雇用関係の法律や実際の雇用に際しての注意点など）
- ②雇用時に発生する各種の問題・悩みに関しての個別相談対応（研修会場・ホームページ・電話窓口）
- ③各種事例紹介や、雇用管理のしおりの作成と配布



研修会に参加されることが出来ない方は、ホームページや電話相談を有効活用ください。

(ご質問を投稿いただければ、後日ご回答いたします)

ホームページアドレス：<http://web.apollon.nta.co.jp/agricultural/>

TEL：03-5402-6401 FAX：03-3437-3944 Email：nogyou_soudan@nta.co.jp

(株式会社日本旅行 ECP 営業部内)

相談事例

- 初めて雇用する事を検討中、雇用する時はどんな事に気をつけたらいいの。
 - 従業員の給与・賞与を増額してあげたい、給与を増やすべきか？賞与を増やすべきか？
 - 従業員も増えて来たので、法人化したほうが良いと回りに言われるけど？どう変わるの？
 - 労働保険は掛けた方が良いの？
 - 実は「雇用契約書」って今まで作ってないのだけど・・・
 - ずっと求人を出しているが、全然応募がない、なぜだろう？
 - 通勤手当って出さないと駄目なの？
 - 仕事中に従業員が怪我したらどうなるの？
- など雇用に関する疑問は、お気軽に質問ください。

農業関係制度の紹介

知らないと損する「農業者年金制度」について

一般社団法人 和歌山県農業会議

1. 農業者年金とは

農家の老後の安定と担い手の確保を目的として、農家の方だけに創設された国の公的年金制度で、農家の方にとりまして多くのメリットがある年金です。

平成13年に大改革が行われて、平成14年から、これまでの農業者年金と全く異なった新しい仕組みになり15年を経過しますが、まだ、その内容が知られていません。

2. 新しい仕組みとは

保険料は自分で決め、積み立て方式でコツコツと貯めながら安全に運用していく、「確定拠出型」の年金です。

支払った保険料とその運用益は個人ごと管理され、将来必ず自分の年金として支払われますので、少子高齢化の影響も受けない安心できる年金です。

昨年まで15年間の平均運用利回りは、+2.77%と安定した実績を上げています。

3. 加入資格は

- ①年齢が20歳以上60歳未満の方
- ②農業に従事、年間60日以上の方
- ③国民年金第1号被保険者



農業経営者



配偶者



後継者

この3つの要件を満たしていれば、農業経営者の方はもとより、配偶者や後継者の方、また兼業農家の方でも加入できます。

4. 保険料は

月額2万円から6万7千円まで、千円単位で自由に設定できます。ですから、経営状況や老後の生活設計に応じていつでも見直すことができ、脱退も自由です。

5. 加入期間は

20歳以上で60歳未満であれば、何年間でも加入できます。例えば1年間の加入でも運用されて年金として返ってきます。

若いときはコツコツ積み立て、年を取られてからでも遅くはありません。いつからでも始められる、それが「農業者年金」です。

6. 多くのメリットとは

- ①80歳までの保証付きの終身年金

65歳から生きている限り、生涯にわたって受け取れる終身年金です。もし、ご不幸にも80歳までに亡くなられた場合、80歳までの年金相当額がご遺族に出ます。

- ②税制面での優遇措置

支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象になり節税効果が抜群となります。

- ③担い手には保険料の国庫補助制度

39歳までに加入し、認定農業者や青色申告の方など一定の条件に達する意欲ある担い手の方には、保険料月額2万円のうち最大1万円の国の補助を受けられます。

7. 問い合わせ

最寄りの農業委員会またはJA窓口にご相談ください。また、「農業者年金」で検索のうえ農業者年金基金のホームページで、詳しく知ることも出来ます。

農業士会支部活動レポート

REPORT

平成 29 年度 和歌山県農業士会連絡協議会 県外研修 ～ 無茶々園 と 香川県農業試験場府中果樹研究所 ～

今回は、「果樹産地の特徴ある『地域づくり』に学ぶ」をテーマに、昨年度、農林水産祭・豊かなむらづくり部門で天皇杯を受賞した無茶々園（愛媛県西予市）と、和歌山でも栽培が盛んなキウイフルーツの育種を行う香川県農業試験場果樹研究所（香川県坂出市）を訪れました。

1. 地域協同組合 無茶々園

今回の研修では、株式会社地域法人無茶々園の平野専務と宇都宮代表のお二人から無茶々園の成り立ち、事業内容、将来展望などについて、ファーマーズユニオン天歩塾の酒井氏から就農希望者の研修状況についてお話を伺いました。

無茶々園では、地元明浜地区の生産者らが柑橘類の生産、資材の共同購入を行う「農事組合法人無茶々園」、販売管理業務を行う「株式会社地域法人無茶々園」、就農希望者の研修受け入れも行う大規模農場「ファーマーズユニオン天歩塾、有限会社ファーマーズユニオン北条」、福祉事業を行う「株式会社百姓一輝」と、水産事業者である「海の生産者」の代表が集まって、「地域協同組合無茶々園」を形成し、全体の方針を決める方式で運営されています。

農業生産の分野では、現在、明浜地区周辺と松山市などを併せて 200ha を超える面積で、温州ミカンと伊予柑を主力とする柑橘類や野菜が栽培されており、無農薬・無化学肥料を基本にしています。販売は生協や消費者との直接取引などが主体とのことでした。

天歩塾の研修生はほとんどが非農家出身者で数年間の研修を経て地元に戻るケースが多いものの、現在 1 名が地区へ定着の準備を進めているとのことでした。

地域に新たな仕事が出来て人が増え、地区内の住宅が不足していることなどを聞き、無茶々園のこれまでの取り組みは既に十分成果が上がっているにもかかわらず、更なる将来の労働力不足を見据えて海外で研修生の教育施設を作るなど、常に人材育成や仕事おこし（仕事をつくる）に積極的な姿勢が非常に印象的でした。



「ファーマーズユニオン天歩塾」の取り組み

2. 香川県農業試験場府中果樹研究所

香川県のキウイの生産量は和歌山県より少ないですが、昭和 50 年代から育種が行われており、これまでに「さぬきゴールド」などの品種が育成されています。

研修では、同研究所の濱野技師の説明と案内で、現在行っている「さぬきゴールド」の有袋栽培試験のほ場などを見学しました。質疑応答では品種や栽培の特性、好適な園地条件等について多数の質問が出され、身近な品目であったため関心は高いことが感じられました。



香川県育成品種について説明

3. 研修を終えて

農業から始まった取り組みが原動力となり、地域のさまざまな分野へ波及している無茶々園ですが、人材育成には苦労も多いとの話には複数の出席者から共感する声が聞かれました。今回の研修が、地域活性化や担い手育成に携わる農業士の活動に活かされることが期待されます。

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(60歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

平成29年11月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	152名(うち女性 24名)
地域農業士	537名(うち女性 52名)
青年農業士	145名(うち女性 1名)
合計	834名(うち女性 77名)



表紙の人

紀の川市 地域農業士

高岡 宏幸さん

高岡さんは、温州みかん、八朔、清見、はるみ、桃の果樹専作経営を行い、基盤整備や機械化により農作業の省力化に取り組まれています。

和歌山の農業士 第9号

発行日：平成29年11月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

